

# 新潟県立看護大学 自己点検評価報告書

—専任教員の活動業績—  
—各種委員会等の活動報告—

平成29年3月



新潟県立看護大学  
Niigata College of Nursing



# 専任教員の 活動業績

# 1 研究、社会及び学内教育活動業績

## (1) 制作要件

「研究活動」と「社会活動」及び「学内教育活動」について、平成28年4月から平成29年3月までの12ヶ月間の期間について、本学の在職各教員から申告のあった国内外における活動（業績）の一覧である。

ア 28年12月末日までに退職ないし転職している教員のものは含まない。

イ 原則として、各教員から提出されたものを修正せず掲載する。

ウ 掲載の順番は領域順・科目群順とし、個人は平成29年3月現在の職位順ついで採用順に掲載する。

エ 掲載に際して職位名等は入れず、氏名のみの表示とする。

オ 平成28年4月以降12月までに着任した専任教員の業績についても、ウに従って掲載する。

## (2) 活動業績掲載順

<b>【共通科目】</b>			
<b>I 人間環境科学領域</b>			
社会科学	藤田 尚……………1	大崎 麻美……………48	
	渡辺 弘之……………3	相澤 達也……………49	
	徐 淑子……………5	坂田 智佳子……………50	
情報科学	橋本 明浩……………7	小児看護学	大久保 明子……………51
	中村 義実……………9		北村 千章……………53
	永吉 雅人……………11		山田 真衣……………56
	エルダトン・サイモン…14		野澤 祥子……………58
		母性看護学・助産学	
<b>II 生物医学領域</b>			高島 葉子……………59
自然科学	境原 三津夫……………17		西田 絵美……………61
	野村 憲一……………19		中澤 紀代子……………63
			高塚 麻由……………64
			天谷 まり子……………66
<b>【専門科目】</b>			
<b>III 基礎看護学領域</b>			
看護管理学	岩永 喜久子……………21	<b>V 地域生活看護学領域</b>	
基礎看護学	水口 陽子……………23	老年看護学	小泉 美佐子……………68
	岡村 典子……………25		原 等子……………70
	川島 良子……………27		河原畑 尚美……………74
	谷内田 潤子……………28		安藤 亮……………76
	内藤 みほ……………29	精神看護学	大倉 由貴……………78
			田口 玲子……………79
<b>IV 臨床看護学領域</b>			後田 穰……………81
成人看護学	石田 和子……………31		伊藤 ひかる……………83
	高柳 智子……………34		安達 寛人……………84
	酒井 禎子……………36	地域看護学	平澤 則子……………86
	山田 正実……………38		飯吉 令枝……………89
	飯田 智恵……………40		高林 知佳子……………91
	小林 綾子……………42		川野 英子……………93
	石原 千晶……………44		井上 智代……………95
	石岡 幸恵……………46		野口 裕子……………97
			久保野 裕子……………98

藤田 尚

【研究活動】

1. 原著論文

Fujita, H. and Adachi, H. (2017) : Paleo health based on dental pathology and cribra orbitalia from the ancient Egyptian settlement of Qau. Anthropological Science, 125(1), 35~42. (査読有)

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

Fujita, H. (2016.6. 9): Cranial and Dental Stress Markers on the Human Skeletal Remains from Ancient Egypt QAU Site. Bio archaeology Reconstruction of Past from the Ancient Excavated Bones. (ファーストセッションオーガナイザー&筆頭発表者), SEAA7, (Cambridge Boston,USA) .

Fujita, H. (2016.8.31): Reconstruction of both the paleo-environment and paleo-health from human skeletal remains from the QAU site in Egypt. Paleopathology in Asia. (ファーストセッションオーガナイザー&筆頭発表者), WAC-8, (Kyoto, Japan) .

Fujisawa, S., Harihara, S., Fujita, H. and Nomura, K (2016.8. 31): Bone lesions found on human skeletal remains excavated from early-modern Japanese archaeological sites-with a focus on syphilis and leprosy. (ファーストセッションオーガナイザー&第3発表者), WAC-8, (Kyoto, Japan) .

藤田 尚 (2016.10.10) : 古人骨におけるストレスマーカー評価の問題点

The problems of evaluation on stresmarkers in human skeletal remains (Fujita, Hisashi) シンポジウム S4 骨をどう読むかー古病理における病変の解釈ーHow to read the bones - interpretation of lesion in paleopathology-(オーガナイザー&発表者), 日本人類学会第70回大会, (新潟医療福祉大学) .

藤田 尚 (2016.12.17) : ケンブリッジ大学所蔵の古代エジプト QAU 遺跡の頭蓋骨の肥厚について, 日本古病理学研究会第1回大会, (東京大学) .

5. その他の研究活動

【学会等における活動】

- ・ 日本人類学会評議員
- ・ 日本古病理学研究会副会長
- ・ 日本古病理学研究会学術雑誌編集長

- ・日本老年歯科医学会代議員
- ・日本旧石器学会幹事（2016年6月まで）
- ・東京大学大学院理学系研究科客員共同研究員
- ・地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター協力研究員
- ・英国ケンブリッジ大学招聘研究員
- ・モンゴル国立大学客員教授
- ・早稲田大学非常勤講師
- ・北原学院歯科衛生専門学校非常勤講師
- ・Editorial Manager in “Anthropological Science”
- ・Editorial Manager in “Anatomical Science International”
- ・Editorial Manager in “PLOS ONE”
- ・Editor of the special Issue of “Anthropological Science”

#### 【社会活動】

- ・新潟県立看護大学看護研究交流センター出前授業 「長寿のための食卓」（8回）

#### 【学内教育活動】

学部：基礎ゼミナール7，自然人類学，ふれあい実習

大学院：人類学特論

#### 【学内委員会等の活動】

図書委員会委員，倫理委員会委員，情報ネットワーク特別部会委員，情報ネットワーク実行部会委員

#### 【外部資金獲得】

藤田 尚（研究分担者）：科学研究費基盤研究（C）発掘人骨の古病理学的ストレスマーカーに見える性別役割 研究期間 2016年度～2018年度 配分総額 450,000円

渡辺 弘之

**【研究活動】**

1. 原著論文

渡辺弘之 (2016) : ベトナムにおけるハンセン病元患者自立支援プログラムの事例とハンセン病元患者によるプログラムへの評価, 日本ハンセン病学会雑誌, 85 (3) , 133-152, (査読有).

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

Measuring Quality of life for Children by Kid-KINDL<sup>R</sup>. Quy Hoa National Leprosy Dermatology Hospital, Vietnam. (ベトナム国立クイホア病院におけるセミナー、2016年8月)

ベトナムのハンセン病元患者を親に持つ子どもたちの QOL 調査 (ベトナム国立クイホア病院、2016年8月)

Assessing the Quality of life of ex-leprosy patients' children -Interim report from the research in Quy Hoa National Leprosy Dermatology Hospital 2016 -, Quy Hoa National Leprosy Dermatology Hospital, Vietnam. (調査研究報告、ベトナム国立クイホア病院、2017年3月)

**【学会等における活動】**

なし

**【社会活動】**

上越市国際交流協会じょうえつ外国人医療支援プロジェクト (2016-)

**【学内教育活動】**

学部：基礎ゼミナール, ふれあい実習, 社会学, 社会福祉概論, 地域社会と住民組織, 専門ゼミナール I・II

大学院：老年看護学特論 I

**【学内委員会等の活動】**

教務委員会委員，国際交流委員会委員，ハラスメント防止特別委員会委員，3学年担任

**【外部資金獲得】**

ベトナムのハンセン病村に住む子どもたちの自立支援と社会的統合（科学研究費基盤研究(C)課題番号 6K04153，2016-2018)



徐 淑子

## 【研究活動】

### 1. 原著論文

徐淑子, 池田光穂, 近藤千春 (2017) : オランダにおける薬物使用者へのケア・サポート資源と医療: ハーム・リダクションから離脱・回復志向的实践まで, 日本アルコール関連問題学会雑誌, 18(2), 59-65, (査読有) .

### 2. その他の論文

徐淑子(2016) : 性風俗の顧客男性とはだれか? —HIV予防の観点からみた性娯楽サービスの男性利用者, 日本「性とこころ」関連問題学会誌『性とこころ』, 8(1):101-114. (査読無) .

徐淑子, 池田光穂(2017):薬物問題についての最近の動向と大学生を対象とした薬物乱用防止教育, CO\* Design, 1:67-84. (査読無) .

池田光穂, 徐淑子(2017) : 学習者から探求者へ—オランダ・マーストリヒト大学におけるPBL教育—, 大阪大学高等教育研究, 5, 19-28, (査読有) .

### 3. 著書

なし

### 4. 学会発表

徐淑子 (2016.10.22) : オランダにおける薬物使用者に配慮のあるホームレス支援, シンポジウム I 「各国における多様な回復への試み〜テラー・メイドの回復支援〜」, 第27回日本嗜癮行動学会京都大会, 龍谷大学深草キャンパス (京都府).

徐淑子 (2017.1.7) : オランダの実践にみるハーム・リダクションと回復支援, 第16回DARS in Osaka薬物依存者回復支援セミナー『アディクション・トランス・アドボカシー』, マイドームおおさか (大阪) .

### 5. その他の研究活動

研究プロジェクト参加 (研究協力者)

「多様化する嗜癮・嗜虐行動からの回復を支援するネットワーク (ATAnet)の構築」(研究代表者・石塚伸一), 科学技術振興機構 (JST) 社会技術研究開発センター (RISTEX) 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」研究開発領域.

## 【学会等における活動】

- ・女性とアディクション研究会・代表発起人
- ・日本保健医療社会学会
- ・日本保健医療行動科学会
- ・日本健康教育学会・日本ヘルス・コミュニケーション学会

- ・日本アルコール問題関連学会
- ・日本エイズ学会
- ・International Sociological Association/RC49精神保健社会学部会
- ・国際ヘルスプロモーション健康教育連盟
- ・日本精神保健福祉士協会

#### 【社会活動】

- ・北里保健衛生専門学院非常勤講師
- ・桐生大学非常勤講師
- ・映画【ら】上映とシンポジウム「性暴力被害に対する第三者の向き合い方—報道やネットによる二次被害防止を考える—，女性とアディクション研究会主催公開イベント，すみだ生涯学習センター・ユートリヤ・ドーム，東京.(2016.11.20)

#### 【学内教育活動】

学部：基礎ゼミナール2，保健・医療行動科学，ふれあい実習  
大学院：健康社会学

#### 【学内委員会等の活動】

入学小委員会，FD委員会，研究推進委員会

#### 【外部資金獲得】

徐淑子（研究代表者）：「ハームリダクション時代の依存症ケア：日蘭の文化的差別をふまえた国際比較研究」，科学研究費助成金，挑戦的萌芽研究（15K13084）

橋本明浩

【研究活動】

1. 原著論文

Sonomi Okazaki, Naoko Hara & Akihiro Hashimoto (2016) , Outcome on Green Tealeaf Treatment For Hand Contracture in Long-Term Bedridden Elderly Patients: A Randomized Controlled Trial, International Journal of Advances in Science, Engineering and Technology, 4(3-I2), (ISSN 2321 –8991), 38-41, (査読有) .

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

Sonomi Okazaki, Naoko Hara & Akihiro Hashimoto (2016.9.29-30) : Study on Effects of Green Tea-leaf Treatment for Hand Contractures in Long-Term Bedridden Elderly Patients, (Bangkok, Thailand).

Sonomi Okazaki, Naoko Hara & Akihiro Hashimoto (2016.7.12-13), Outcome on Green Tealeaf Treatment for hand Contracture in Long-Term Bedridden Elderly Patients: A Randomized Controlled Trial、57th International Conference on Recent Advances in Medical and Health Science (ICRAMHS), (Darussalam, Brunei).

5. その他の研究活動

上記タイバンコクの国際学会でベストプレゼンテート，推奨論文賞を受賞  
ブルネイ開催の上記国際学会でパネルリスト推薦を受ける

【学会等における活動】

- ・日本看護科学会（会員）
- ・日本公衆衛生学会（会員）
- ・統計情報研究会（会員）
- ・上記バンコク開催の国際学会で医学健康保健のセッション座長
- ・Nursing & Healthcare International Journal (NHIJ) 編集査読委員

【社会活動】

- ・看護研究交流センター公開講座講師 「エクセル統計解析」

**【学内教育活動】**

学部：情報科学，情報処理演習，保健統計演習，基礎ゼミナール，ふれあい実習  
大学院：看護情報統計学

**【学内委員会等の活動】**

情報ネットワーク特別委員会委員長，図書委員会副委員長，情報ネットワーク特別委員会  
委員長，法人ワーキンググループ委員

**【外部資金獲得】**

なし

中村 義実

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・異文化コミュニケーション学会
- ・異文化間教育学会
- ・大学英語教育学会
- ・ヘルスコミュニケーション学会

【社会活動】

- ・新潟県国際理解教育推進協議会委員
- ・じょうえつ外国人医療支援プロジェクト
- ・敬和学園大学 非常勤講師：異文化コミュニケーション論 1・2
- ・埼玉大学教養学部寄附講座講師：「自己発見のための異文化理解」（2016年12月8日）
- ・新潟日報 看護大通信（149）「AIと「2045年問題」」

【学内教育活動】

学部：基礎ゼミナール（言語とコミュニケーション）、英語リーディングⅠ、英語リーディングⅡ、英語ライティングⅠ、英語ライティングⅡ、英語ライティングⅢ、英語ライティングⅣ、ふれあい実習

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

国際交流委員会委員長、入試・広報委員会委員、FD委員会委員、法人ワーキング

【外部資金獲得】

なし

## 【研究活動】

### 1. 原著論文

永吉雅人, 阿部杏奈, 大須賀一郎, 小野楓, 小嶋夏実, 駒形洋和, 三井隆吉, 阿部有希, 市川佳奈, 北嶋萌々子, 佐藤千夏, 古淵里歩 (2016) : 車いす段差通過時の介助姿勢によって介助負担および乗用者の快適性にどのくらい違いがあるか-看護学生が車いすの段差通過時の操作法について学ぶ-, 看護実践の科学, 41(9), 72-76, (査読有) .

坂詰朱美, 塚田文枝, 田中亜裕美, 相羽綾子, 古澤絵美, 廣瀬洋美, 柳沢麻衣, 栗崎裕子, 高島葉子, 高塚麻由, 永吉雅人 (2016) : 新生児の臍帯ケアをアルコール消毒から水分拭き取りに切り替えた効果, 第46回(平成27年度)日本看護学会論文集 ヘルスプロモーション, 69-72, (査読有) .

山田真衣, 水口陽子, 永吉雅人, 小林綾子 (2016) : 森林セラピーロードでの気候療法における心身リラックス効果とその要因の検討 - 唾液アミラーゼ活性値と気分プロフィール検 (POMS) から -, 新潟医学会誌, 130(9), 535-542, (査読有) .

永吉雅人, 岡崎由里, 島倉琴乃, 谷平栞理, 遠藤海, 品田美佳, 清水亜由未, 神保紗瑛, 藤田瑞帆, 猪瀬千明, 佐々木優, 野村憲一 (2017) : 緊急移送時などにおける車椅子移送速度の限界とその心身に与える影響, 看護実践の科学, 42(2), 61-68, (査読有) .

### 2. その他の論文

北村千章, Elderton Simon J.H, 中込さと子, 永吉雅人, 山田真衣 (2016) : 22q11.2 欠失症候群の人々のための長期的なケアマネジメントに関する文献レビュー, 日本遺伝看護学会誌, 15(1), 60-68, (査読有) .

### 3. 著書

なし

### 4. 学会発表

永吉雅人 (2016.6.18) : エージェントとの共創的な相互作用を目指した機械学習技術, 電気学会システム研究会, 1-6 (ST-16-017). (狛江).

永吉雅人, Elderton Simon, 榊原一紀, 玉置久 (2016.9.1) : 自律分散型 AGV 経路計画における強化学習による交渉ルールの適応的獲得, 平成28年電気学会電子・情報・システム部門大会, 140-144 (TC6-4(on CD-ROM)). (神戸).

北村千章, Elderton Simon, 山田真衣, 永吉雅人, 水落芳明, 桐生徹, 片桐史裕, 阿部隆幸 (2016.11.19) : 22q11.2 欠失症候群をもつ子どもたちの現状と課題-医療と学校の連携と協同-, 第2回臨床教科教育学会研究会2016年度, (上越).

永吉雅人, Elderton Simon, 榊原一紀, 玉置久 (2016.12.2) : 状態フィルタを用いた強化学習による自律分散型 AGV 経路計画: 交渉ルールの可視化, 電気学会システム研究会, 23-28 (ST-16-046), (伊東).

永吉雅人, Elderton Simon, 榊原一紀, 玉置久 (2016.12.6) : AGV 経路計画における状態フィルタを用いた強化学習による交渉ルールの適応的獲得, 計測自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会 (SSI2016), 552-556 (SS05-1), (大津).

Masato Nagayoshi, Simon Elderton, Kazutoshi Sakakibara and Hisashi Tamaki (2017.1.19~22) : Adaptive Negotiation-rules Acquisition Methods in Decentralized AGV Transportation Systems by Reinforcement Learning with a State Space Filter, Proceeding of International Conference on Artificial Life and Robotics 2017 (ICAROB'17), 346-349 (GS2-1(on DVD-ROM)), (宮崎).

## 5. その他の研究活動

野村憲一, 永吉雅人, エルダトン・サイモン (2016.11.6) : 現代の法螺貝の使われ方～上越市を中心に～, 平成 28 年度新潟県生活文化研究会年次大会. (新潟).

平成 28 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成「上越市小中学校の児童・生徒における化学物質過敏症に関する実態把握—受動喫煙の有無と運動習慣の有無による発症割合の違い—」, 代表 (120 千円).

### 【学会等における活動】

#### 1. 学会会員

- ・システム制御情報学会
- ・電気学会
- ・計測自動制御学会
- ・遺伝看護学会

#### 2. 委員会

- ・電気学会 電子・情報・システム部門 システム技術委員会 2号委員
- ・電気学会 エージェントとの共創的な相互作用のモデル化に向けた機械学習技術協同研究委員会 委員長
- ・電気学会 平成 28 年度電子・情報・システム部門大会 開催地区実行委員会 委員
- ・システム制御情報学会 学術講演会 (SCI'17) 実行委員会 委員
- ・計測自動制御学会 システム・情報部門 運営委員会 前会計幹事

#### 3. 査読

- ・計測自動制御学会 Annual Conference 2 papers (2016.5-6)
- ・電気学会 C 部門誌 2 papers (2016.12-)

#### 4. 座長等

- ・電気学会 電子・情報・システム部門大会 TC6 機械学習技術における現状の課題と今後の展開オーガナイザー・座長 (2016.9.1).



- ・電気学会 システム研究会 機械学習研究の最新動向 機械学習3 セッション座長 (2016.12.2) .
- ・計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2016 SS05 システム・シミュレーションと最適化オーガナイザー(2016.12.6).

#### 【社会活動】

- ・NPO 法人 関川水辺クラブ 監事
- ・NPO 法人 新潟県難病相談支援センター 会員
- ・新潟経営大学 非常勤講師「マルチメディア」, 「データベース」
- ・どこでもカレッジ公開講座「わかりやすいプレゼンテーションのやりかた」講師 (2016.9.27)
- ・上越看護専門学校 特別講義「個人情報と倫理」 (2016.7.12)

#### 【学内教育活動】

学部：情報処理演習，情報科学，ふれあい実習，基礎ゼミナール，疫学，保健統計演習，  
 専門ゼミナール I，専門ゼミナール II  
 大学院：なし

#### 【学内委員会等の活動】

情報ネットワーク特別委員会副委員長，情報ネットワーク実行部会委員長，看護研究交流センター特別研究部門長，学生委員会副委員長，自己点検・評価特別委員会作業部会メンバー，ハラスメント相談員，渡邊隆学長退任記念講演・祝賀会お世話係（学生担当）

#### 【外部資金獲得】

2015～2017 年度 科学研究費補助金 萌芽研究 「22q11.2 欠失症候群をもつ人々のためのケアガイドの理論的枠組みの構築」，分担（150 千円）.

Simon Elderton (エルダトン・サイモン)

【研究活動】

1. 原著論文

水澤久恵, サイモン・エルダトン (2016) : “Ethical sensitivity” の概念分析,  
新潟医学会雑誌, 130(5), 315-324, (査読有).

Brown Ivan B., Elderton Simon (2016) : Story-telling and interactional management in  
Internet-based instructional conversation using English as a lingua franca: Analysis,  
methodological issues and pedagogical implications, 上越教育大学研究紀要, 36(1)  
173-184, (査読有).

Brown Ivan B., Elderton Simon (2017) : Verbal and non-verbal management of repair in  
NS-NNS English conversation and the potential of overseas field data as teaching material, 上  
越教育大学研究紀要, 36(2) 531-540, (査読有).

Nomura K, and Simon Elderton (2017) : Sounding the Conch Horn (Hara-gai) in  
Modern Japanese Life: A Survey in Joetsu City (Northern Japan) and Nou town.  
Niigata no Seikatsu to Bunka, no.23,pp6-10, (査読有).

2. その他の論文

北村千章, Elderton Simon, 中込さと子, 永吉雅人, 山田真衣 (2016) : 22q11.2 欠失症候  
群の人々のための長期的なケアマネジメントに関する文献レビュー, 日本遺伝看護学会  
誌, 15(1), 60-68. (査読有)

3. 著書 (視聴覚教材等を含む)

なし

4. 学会発表

永吉雅人, Elderton Simon, 榊原一紀, 玉置久 (2016.9.1) : 自律分散型 AGV 経路計画に  
おける強化学習による交渉ルールの適応的獲得, 平成 28 年電気学会電子・情報・システ  
ム部門大会, 140-144 (TC6-4(on CD-ROM)). (神戸).

北村千章, Elderton Simon, 林 伸彦, 中込さと子 (2016.9.24) : Children’s Hospital of  
Philadelphia 22q and You Center での調査報告, 第 15 回 日本遺伝看護学会学術集会.  
(新潟) .

北村千章, Elderton Simon, 山田麻衣, 永吉雅人, 水落, 桐生, 片桐, 阿部 (2016.11.19)  
: 22q11.2 欠失症候群をもつ子どもたちの現状と課題-医療と学校の連携と協同-, 第 2  
回臨床教科教育学会研究会 2016 年度. (上越).

永吉雅人, Elderton Simon, 榊原一紀, 玉置久 (2016.12.2) : 状態フィルタを用いた強化  
学習による自律分散型 AGV 経路計画: 交渉ルールの可視化, 電気学会システム研究会,  
23-28(ST-16-046), (伊東).

永吉雅人, Elderton Simon, 榊原一紀, 玉置久 (2016.12.6) : AGV 経路計画における状態

フィルタを用いた強化学習による交渉ルールの適応的獲得, 計測自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会 (SSI2016), 552-556 (SS05-1), (大津).

境原三津夫, Elderton Simon, 坂上奈瑠美 (2016. 12. 11): 女子大学生の性暴力被害—1次予防を考える—, 第10回日本セーフティプロモーション学会, (京都市) (優秀発表賞受賞).

Masato Nagayoshi, Simon Elderton, Kazutoshi Sakakibara and Hisashi Tamaki (2017, 1, 19~22): Adaptive Negotiation-rules Acquisition Methods in Decentralized AGV Transportation Systems by Reinforcement Learning with a State Space Filter, Proceeding of International Conference on Artificial Life and Robotics 2017 (ICAROB'17), 346-349 (GS2-1(on DVD-ROM)), (宮崎)

## 5. その他の研究活動

Elderton Simon (2016. 9. 9): 異文化間コミュニケーション: 理解と誤解, 高田ロータリークラブ 2016年度第10回例会卓話, (上越).

野村憲一, 永吉雅人, エルダトン・サイモン (2016.11.6): 現代の法螺貝の使われ方〜上越市を中心に〜, 平成28年度新潟県生活文化研究会年次大会. (新潟).

### 【学会等における活動】

- ・ JALT (全国語学教育学会) (所属SIG: PRAG, CALL, CUE, BRAIN) 会員
- ・ 日本生命倫理学会 会員
- ・ 日本遺伝看護学会 会員
- ・ Can Kanto Conversation Analysis Network 会員
- ・ JETAA (JETプログラム同窓協会) (関東甲信越部) 会員
- ・ 日本比較文化学会 会員

### 【社会活動】

- ・ 上越教育大学非常勤講師
- ・ 上越市国際交流事業への貢献

サイモン・エルダトン (パナリスト) (2017. 2. 11): 外国人市民によるみちまちわいわい公開トーク, 女性みちみらい上越・北陸地域づくり協会, (上越). (依頼あり)

サイモン・エルダトン (通訳) (2017. 3. 22): 姉妹都市であるオーストリアのリリエンフェルト市からラーベンバッハー新市長の親書を携え、アーノ・クリエーン会長が村山市長を表敬訪問するための来越, 上越国際交流協会, (上越). (依頼あり)

### 【学内教育活動】

学部: 英語コミュニケーション I A, 英語コミュニケーション I B, 英語コミュニケーション II A, 英語コミュニケーション II B, 英語コミュニケーション III, 英語コミュニケーション IV, 英語リーディング III, 英語リーディング IV, 基礎ゼミナール (エッセイ・ライティング), ふれあい実習, 専門ゼミナール I, 専門ゼミナール II

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員，国際交流委員会委員，ふれあい実習コーディネーター，看護研究交流センター特別研究部門（卒業生支援），2学年担任

【外部資金獲得】

Brown Ivan B（研究代表者），Elderton Simon（研究分担者）：Creating a corpus of English spoken as a lingua franca between Japanese and cultural others: For the future purpose of developing authentic materials for conversation and intercultural training, 基盤研究(C) 課題番号:26370659, 2014年度 - 2017年度

北村千章(研究代表者) Elderton Simon (研究分担者) : 22 q 11. 2欠失症候群を持つ人々のためのケアガイドの倫理的枠組みの構築, 挑戦的萌芽研究 課題番号:15K15859, 2015年度 - 2018年度

境原三津夫(研究代表者), Elderton Simon (研究分担者) : 性暴力被害者支援看護師を活用するための医療システムの構築, 基盤研究(C)課題番号: 15K11667, 2015年度-2018年度

境原 三津夫

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

塩谷幸祐, 安達寛人, 田口玲子, 境原三津夫 (2017) : 医療観察法指定通院医療機関における課題と対策, 新潟看護ケア研究学会誌, 3, 29-36. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

塩谷幸祐, 安達寛人, 田口玲子, 境原三津夫 (2016. 10. 15) : 医療観察法指定通院医療機関における現状と課題についての検討, 新潟看護ケア研究学会第 8 回学術集会, (新潟市).

境原三津夫, Simon Elderton, 坂上奈瑠美 (2016. 12. 10~11) : 女子大学生の性暴力被害—1 次予防を考える—, 第 10 回日本セーフティプロモーション学会, (京都市) (優秀発表賞受賞)

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本産科婦人科学会・専門医
- ・日本補完代替医療学会・学識医
- ・日本温泉気候物理医学会・温泉療法医
- ・日本セーフティプロモーション学会
- ・日本フォレンジック看護学会
- ・日本母性衛生学会
- ・日本周産期・新生児医学会

【社会活動】

- ・平成 18 年 4 月～現在 金沢医科大学非常勤講師
- ・平成 18 年～現在 医療法人和光会光病院非常勤医師 (地域医療支援活動)
- ・平成 19 年～現在 県北医療センター高菟協同病院非常勤医師 (地域医療支援活動)
- ・平成 25 年 11 月～現在 上越医師会子宮がん検診 (地域医療支援活動)
- ・平成 28 年 7 月 9 日 平成 28 年度看護大上教大連携公開講座講師
- ・平成 28 年 7 月 12 日 平成 28 年度新潟県立糸魚川高校思春期講演会講師
- ・平成 28 年 12 月 11 日 第 10 回日本セーフティプロモーション学会 地域・高齢者セッション座長

**【学内教育活動】**

学部：臨床病態学Ⅰ・Ⅱ，基礎ゼミナール，ふれあい実習，母性看護学Ⅱ，助産学Ⅰ，専門ゼミナールⅠ・Ⅱ，人間社会と倫理

大学院：病態生理学，フィジカルアセスメント，がん看護学特論Ⅲ，看護学領域特別研究

**【学内委員会等の活動】**

図書委員会委員長，研究推進委員会委員長，学校医，看護研究交流センター先駆的学習支援部門員，衛生管理者

**【外部資金獲得】**

境原三津夫(研究代表者)，Elderton Simon(研究分担者)：性暴力被害者支援看護師を活用するための医療システムの構築，基盤研究(C)課題番号：15K11667，2015年度-2018年度

野村憲一

【研究活動】

1. 原著論文

野村憲一(2016)：飯田文書「大江真武流陣貝之巻」について，高志路（新潟県民俗学会雑誌），400号、228-231。（査読有）

野村憲一(2016)：飯田文書「吹貝伝授之事」に記載された陣貝の吹き方について，高志路（新潟県民俗学会雑誌），399号 68-73。（査読有）

野村憲一(2016)：「押太鼓貝御定書」（八戸市立図書館蔵）の内容について，高志路（新潟県民俗学会雑誌），401号 65-66。（査読有）

野村憲一(2016)：「甲州流陣貝巻秘決」について，高志路（新潟県民俗学会雑誌），402号 20-32。（査読有）

野村憲一(2016)：新潟県妙高市長沢地区の祭り「よみや」で用いられている明笛，民俗芸能学会，第60号，68-76。（査読有）

野村憲一、他(2017)：寄生虫の処理方法を学ぶ調理実習—モクズガニの炊き込みごはん—，看護実践の科学 2017年、第42巻、pp60-66。（査読有）

Nomura K., and Simon Elderton (2017) : Sounding the Conch Horn (Hora-gai) in Modern Japanese Life: A Survey in Joetsu City (Northern Japan) and Nou town. Niigata no Seikatsu to Bunka, no.23,pp6-10.（査読有）

永吉雅人，岡崎由里，島倉琴乃，谷平栞理，遠藤海，品田美佳，清水亜由未，神保紗瑛，藤田瑞帆，猪瀬千明，佐々木優，野村憲一（2017）：緊急移送時などにおける車椅子移送速度の限界とその心身に与える影響，看護実践の科学，42（2），61-68。（査読有）

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

Shiori FUJISAWA, Shinji HARIHARA, Hisashi FUJITA, Kenichi NOMURA (2016.8.31): Bone lesions found on human skeletal remains excavated from early-modern Japanese archeological sites with a focus on syphilis and leprosy The 8th World Archaeological Congress Doshisha University, (Kyoto, Japan)

5. その他の研究活動

野村憲一，永吉雅人，エルダトン・サイモン（2016.11.6）：現代の法螺貝の使われ方～上越市を中心に～，平成28年度新潟県生活文化研究会年次大会。（新潟）。

**【学会等における活動】**

なし

**【社会活動】**

なし

**【学内教育活動】**

学部：形態機能学Ⅰ・Ⅱ，臨床病態学Ⅰ・Ⅱ，臨床生化学，ふれあい実習，基礎ゼミナール，専門ゼミナール，生物学

大学院：臨床薬理学，病態生理学，フィジカルアセスメント，がん看護学特論Ⅲ，がん看護学特別演習Ⅱ

**【学内委員会等の活動】**

入試・広報委員会委員長，教務委員会，FD委員会，看護研究交流センター 特別研究部門（地域政策課題）

**【外部資金獲得】**

北野生涯教育振興会研究助成

課題：潜在看護師再就職のための卒業年次別支援プログラム

研究期間：2015-2016年

交付金額：80万円

代表者・分担者の別：代表者



岩永 喜久子

### 【研究活動】

#### 1. 原著論文

- 中村美香, 岩永喜久子, 今井 裕子, 杉田 歩美, 須川 美枝子, 永井 弥生, 近藤浩子  
(2016) :急性期病院に勤務する看護職のヒューマンエラータイプとインシデント・アクシデントおよび属性の関連に関する研究, 群馬保健学研究 37, 1-10 (査読有)
- 中村美香, 近藤浩子, 岩永喜久子, 今井 裕子, 杉田 歩美, 須川 美枝子, 永井 弥生  
(2016) :看護職がインシデント・アクシデントを繰り返す要因に関する研究, THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL 66(4), 279-288, (査読有) .

#### 2. その他の論文

- 岩永喜久子 (2016) :看護職の人材育成の探求-看護の力を発揮して活動する看護専門外来-THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL 66(2), 83-89, (総説) ,(査読無)

#### 3. 著書

なし

#### 4. 学会発表

- 中村 美香, 岩永 喜久子, 今井 裕子, 杉田 歩美, 近藤 浩子(2016.12.11) :看護職が起こしたエラーのタイプと関連する要因, 第36回日本看護科学学会学術集会.(東京).
- 岩永 喜久子, 中村 美香, 今井 裕子, 杉田 歩美, ミルズ しげ子, 竹内 ミカ, 田島 貴光, 柳澤 淳子 (2016.8.21) :臨床に活かす大学院における看護学の学び-看護管理学を中心に-, 一般社団法人日本看護研究学会第42回学術集会.(つくば市).
- 大野 恭平, 岩永 喜久子, 中村 美香 (2016.8.21) :本邦における制度化前の特定看護師に関する文献検討, 一般社団法人日本看護研究学会第42回学術集会.(つくば市).

#### 5. その他の研究活動

なし

### 【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会 (代議委員)
- ・日本看護技術学会 (評議委員)
- ・日本看護研究学会
- ・日本看護教育学会
- ・日本看護管理学会
- ・北関東医学会
- ・日本看護医療学会
- ・日本看護学会

- ・日本看護科学学会平成 28 年度表彰論文の査読
- ・日本看護技術学会第 15 回学術集会演題査読
- ・日本看護技術学会第 15 回学術集会座長

#### 【社会活動】

- ・新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会講師（平成 28 年度同講習会；成人教育）
- ・長野赤十字病院研修会講師（レベルⅡ研修：看護と倫理）
- ・新潟県地域内看護職員育成システム構築事業上越地域内看護職員研修会講師（イノベーションを生み出す看護マネジメント）
- ・独立行政法人日本学術振興会審査委員候補者

#### 【学内教育活動】

学部：看護管理、専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，人間社会と倫理，国際看護論  
 大学院：看護管理学特論，看護管理学援助論Ⅰ，看護管理学援助論Ⅱ，看護管理学特別演習（看護管理学研究），看護教育学，看護学領域特別研究，看護学研究法

#### 【学内委員会等の活動】

倫理委員会委員長，入学小委員会委員長，教学小委員会，紀要委員会，博士後期課程開設検討委員会，法人ワーキング，理事長専攻会議委員

#### 【外部資金獲得】

- ・岩永 喜久子（代表）：チーム医療における高度実践看護師が担う看護専門外来システムの開発に関する研究，科学研究費 基盤 C （2016 年～2019 年）
- ・中村 美香（代表），岩永 喜久子（分担者）：看護職の医療事故に関する研究－リスク判定用スクリーニングシートの開発－，科学研究費 挑戦的萌芽研究（2014 年～2016 年）

水口 陽子

**【研究活動】**

1. 原著論文

山田真衣, 水口陽子, 永吉雅人, 小林綾子 (2016) : 森林セラピーロードでの気候療法における心身リラックス効果とその要因の検討 —唾液中アミラーゼ活性値と気分プロフィール検査 (POMS) から—, 新潟医学会雑誌, 130 (9), 535-542. (査読有)

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

**【学会等における活動】**

- ・日本看護科学学会
- ・ナイチンゲール研究学会
- ・日本心身健康科学学会

**【社会活動】**

なし

**【学内教育活動】**

学部：看護学概論，基礎看護技術演習Ⅰ，基礎看護技術演習Ⅱ，基礎看護学実習Ⅰ，基礎看護学実習Ⅱ，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習，ライフステージと看護，人間社会と倫理，看護行政論，看護援助論Ⅰ,看護援助論Ⅱ

大学院：看護学研究法，看護理論，基礎看護学援助論Ⅰ，基礎看護学援助論Ⅱ，基礎看護学特別演習，基礎看護学特論

**【学内委員会等の活動】**

看護研究交流センター長，教務委員会委員長，FD委員会委員，自己点検・評価特別委員会委員

**【外部資金獲得】**

看護学生の生活調整能力育成のための食生活モニタリングを用いた学習教材の開発  
基盤研究(C)，平成 25 年度～28 年度（2013-2016），文部科学省科学研究費研究助成課  
題（25463321）

岡村 典子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

小宮山陽子，水澤千代子，岡村典子(2016)：プリセプター制度の現状と課題，2015 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター活動報告書，59-62.（査読無）.

山田正実，片平伸子，飯吉令枝，内藤みほ，石岡幸恵，高島葉子，岡村典子（2017）：看護学生が行う災害ボランティア活動のための<ハンドマッサージ研修>の効果と課題－学生がコミュニケーションをとりながらハンドマッサージを相互に提供し合う体験からの気づき－，新潟県立看護大学紀要 6，1-8.（査読有）.

3. 著書

なし

4. 学会発表

岡村典子，美濃由紀子，田上美知千佳，宮本真巳（2016.7.2）：感情知性理論を用いた看護基礎教育の展開による援助関係形成力の獲得プロセス，第 26 回日本精神保健看護学会学術集会.（滋賀）.

岡村典子，小宮山陽子，水澤千代子（2016.9.27）：プリセプターシップの現状と課題，第 47 回日本看護学会 看護管理.（石川）.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・新潟県看護協会，上越地区「看護師職能」委員(2015.6～)
- ・新潟県立中央病院看護部教育アドバイザー(2014.11～)
- ・新潟県立中央病院看護部主催，スキル I 研修「看護理論にふれ自己の看護観を深める」講師(2016.6)
- ・新潟県看護協会，「平成 28 年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会」講師，「看護における人間関係論」担当(2016.8)

【学内教育活動】

学部：看護学概論，看護援助論Ⅰ，看護援助論Ⅱ，基礎看護技術演習Ⅰ，基礎看護技術演習Ⅱ，基礎看護学実習Ⅰ，基礎看護学実習Ⅱ，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習

大学院：看護理論，基礎看護学援助論Ⅰ，基礎看護学援助論Ⅱ，基礎看護学特別演習，看護コンサルテーション論

**【学内委員会等の活動】**

看護研究交流センター看護職学習支援部門長，国際交流委員会副委員長，実習委員会副委員長，入学小委員会，障がい者差別法解消対応要領作成ワーキングメンバー

**【外部資金獲得】**

なし

川島 良子

**【研究活動】**

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

川島良子(2016.8.4~5): 「臨地実習における教員の日常生活指導に対する学生の評価」第47回日本看護学会, 看護教育, 学術集会. (滋賀)

川島良子(2016.8.20~21): 「基礎看護学実習における教員の指導の必要性～学生の評価から～」, 日本看護研究学会第42回学術集会. (筑波)

川島良子・馬場美(2016.12.10~11): 「臨地実習において学生が教員に承認されたと感じた内容とその理由」, 第36回日本看護科学学会学術集会. (東京)

5. その他の研究活動

なし

**【学会等における活動】**

なし

**【社会活動】**

なし

**【学内教育活動】**

学部: 基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、専門ゼミナールⅠ・Ⅱ

大学院: なし

**【学内委員会等の活動】**

入試・広報委員会、ハラスメント相談員、災害時看護支援特別委員会、看護研究交流センター 看護職学習支援部門

**【外部資金獲得】**

なし

谷内田 潤子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

八幡和明, 谷内田潤子 (2016) : 特集 5W1H で読み解く! ドロップアウト・バーンアウトを防ぐアプローチ術, 治療中断しない・させない名案・戦略・秘訣「患者さんの心理」, 糖尿病ケア, 13 (9) , 14-15, (査読無) .

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本慢性看護学会
- ・国際看護交流協会

【社会活動】

- ・上越国際交流協会, 国際交流ボランティア養成講座 講師, 10月

【学内教育活動】

学部：国際看護活動論, 基礎看護技術演習 I・II, 基礎看護学実習 I・II, 総合実習, 専門ゼミナール I・II

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

国際交流委員会, FD 委員会, 2 学年担任

【外部資金獲得】

谷内田潤子 : 新規糖尿病患者の未治療抑制に向けた糖尿病療養指導士による健診事後指導効果の検証 (2015~2017) , 若手 B, 文部科学省科学研究費研究助成課題 (課題番号 15K20709)



内藤 みほ

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

山田正実, 片平伸子, 飯吉令枝, 内藤みほ, 他 (2017) : 看護学生が行う災害ボランティア活動のための〈ハンドマッサージ研修〉の効果と課題—学生がコミュニケーションを取りながらハンドマッサージを相互に提供し合う体験からの気づき—, 新潟県立看護大学紀要, 6, 1-8, (査読有) .

3. 著書

Ruth Lindquist , Mariah Snyder , Mary Fran Tracy (2014) / 尾崎フサ子, 伊藤壽記 監訳, 第 28 章, 内藤みほ, 内山美枝子 訳 (2016) : ケアのなかの癒し 原著第 7 版 統合医療・ケア実践のためのエビデンス (第 1 版) , 367-376, 看護の科学社, 東京.

4. 学会発表

Miho Naito, Kazuko Ishida (2016.9.7) : Process of breast cancer receiving chemotherapy accept the change of own appearance , INTERNATIONAL CONFERENCE on CANCER NURSING 2016, (Hong Kong).

5. その他の研究活動

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本がん看護学会
- ・日本公衆衛生学会
- ・日本死の臨床研究会
- ・仏教看護ビハーラ学会
- ・日本臨床倫理学会
- ・新潟がん看護研究会
- ・日本緩和医療学会

その他：日本死の臨床研究会第 23 回関東甲信越支部大会（新潟）2016 年 6 月 企画委員

【社会活動】

新潟日報カルチャースクール（上越校）特別講座「乳がんのお話し～自己検診のススメ～」講師（2016 年 10 月 18 日）

**【学内教育活動】**

学部：基礎看護技術演習Ⅰ，基礎看護技術演習Ⅱ，基礎看護学実習Ⅰ，基礎看護学実習Ⅱ，  
総合実習，  
専門ゼミナールⅠ・Ⅱ

大学院：なし

**【学内委員会等の活動】**

災害時看護支援特別委員会（委員），国家試験対策・就職委員会（委員），保健指導員，  
1年生担任（平成28年度入学生）

**【外部資金獲得】**

なし

石田 和子

【研究活動】

1. 原著論文

片野吉子, 石田和子 (2017) : 精神看護学実習終了時における看護学生への認知, 比較文化研究 12 巻, P103-114, (査読有) .

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

湯本健吉, 明地由紀子, 石田和子 (2016.8.20) : 体重増加の多い透析患者へのセルフケア行動変容プログラムを活用した一症例, 第 42 回日本看護研究学会 (筑波)

Kazuko Ishida, Ruka Mochizuki, Keiko Fujimoto, Kiyoko Kanda (2016.9.7) : Development of an Application Program for Instructional Material regarding to Peripheral Nerve Disorder Caused by Cancer Pharmacotherapy (がん薬物療法に伴う末梢神経障害に対するアプリ教材の開発) 20Th International Conference on Cancer Nursing, Hong Kong. RESEERCH POSTER AWARD (優秀ポスター賞受賞) 表彰

Kiyoko kanda, Keiko Fujimoto, Ruka Mochizuki, Kazuko Ishida, Bumsuk Lee (2016.9.7) : DEVELOPMENT OF THE COMPREHENSIVE ASSESSMENT SCALE FOR CHEMOTHERAPY - INDUCED PERIPHERAL NEUROPATHY IN SURVIVORS OF CANCER : TESTING ITS RELIABILITY AND VALIDITY (がん化学療法によって体験される末梢神経障害とその影響を計量的に測定する Global Assessment Scale for CIPN の開発) 20Th International Conference on Cancer Nursing, (Hong Kong) .

Miho Naito , Kazuko Ishida (2016.9.7) : Process of that Postoperative Patients with Breast Cancer Receiving Chemotherapy Treatment Accept the Change of Own Physical Appearance. (化学療法を受けている乳がん術後患者が外見の変化を受容していく過程) 20Th International Conference on Cancer Nursing, (Hong Kong) .

渡邊たつよ, 鬼形充智, 上野恵美子, 長崎陽子, 石田和子 (2017.2.4~5) : C型肝炎由来の肝細胞がん患者が療養体験を意味づけるプロセス, 第 31 回日本がん看護学会 (高知)

上野美恵子, 長崎陽子, 鬼形充智, 渡邊たつよ, 石田和子 (2017.2.4~5) : 長期生存している同種造血幹細胞移植患者の生活体験, 第 31 回日本がん看護学会 (高知)

鬼形充智, 渡邊たつよ, 長崎陽子, 上野恵美子, 石田和子 (2017.2.4~5) : 精巣腫瘍患者が妊孕性の低下を克服していくプロセス 第 31 回日本がん看護学会 (高知)

小池陽平, 石田和子 (2017.2.4~5) : 苦痛を抱えるがん患者への緩和ケア認定看護師が実

施した相談内容と介入第31回日本がん看護学会（高知）

渡邊真理子, 石田和子（2017.2.4~5）：緩和ケア病棟における家族に対する看取りの看護についての倫理的・道徳的ジレンマ—MORALモデルによる分析と解決の試み—第31回日本がん看護学会（高知）

上野恵美子, 石田和子（2017.3.2~4）：長期生存している同種造血幹細胞移植患者の生活体験から見た経済的問題；11名の解析より，第39回日本造血細胞移植学会総会（島根）

## 5. その他の研究活動

なし

### 【学会等における活動】

- ・日本看護協会
- ・日本看護研究学会
- ・日本がん看護学会
- ・日本がん看護学会 評議員（2012～2017年3月）
- ・日本がん看護学会 査読委員（2012～）
- ・日本看護科学学会
- ・日本看護診断学会
- ・日本造血幹細胞移植学会
- ・日本緩和医療学会
- ・北関東医学会
- ・群馬がん看護研究会
- ・群馬がん看護研究会理事（2007～2017.3）
- ・群馬緩和ケア研究会
- ・群馬緩和ケア研究会世話人（2007～）
- ・日本死の臨床研究会（2015～）
- ・日本死の臨床研究会 第23回関東甲信越支部大会企画委員（2015.9～）

### 【社会活動】

- ・日本専門看護師協議会
- ・群馬専門看護師協議会
- ・群馬がん看護学会会員および理事
- ・本庄児玉看護専門学校（2年）看護研究の基礎
- ・富山県看護協会主催 緩和ケア認定看護師教育課程 講師
- ・看護研究交流センター どこでもカレッジ公開講座
- ・第1回看護研究のテーマをみつけよう（2016.6.24 13:00～16:00）
- ・第2回さあはじめよう看護研究～研究計画書の書き方まで～（2016.8.5 13:00～16:00）
- ・新潟県看護協会 緩和ケア認定看護師教育課程運営委員（2016年6月～）
- ・高崎市医師会看護専門学校『看護診断の基礎』

### 【学内教育活動】

学部：成人看護学Ⅰ・Ⅱ，成人看護学演習，成人看護学実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習，総合科目，ライフステージと看護

大学院：がん看護学特論Ⅰ，がん看護学特論Ⅱ，がん看護学特論Ⅲ，がん看護学特別演習Ⅰ，がん看護学特別演習Ⅱ，がん看護学特別演習Ⅲ，看護学研究法，看護コンサルテーション論，病態生理学，臨床薬理学，がん治療看護介入演習Ⅰ・Ⅱ，がん高度実践看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ，看護学領域別特別研究，専門分野別課題研究（がん CNS）

### 【学内委員会等の活動】

実習委員会委員長，教務委員会委員，教学小委員会委員長，入学小委員会委員，看護研究交流センター 地域課題研究開発部門

### 【外部資金獲得】

石田和子（研究代表者）：化学療法に伴う吃逆の統合支援マネジメントモデルの開発と有用性の検討，科学研究費 基盤研究 C（2014～2017年3月）

神田清子（研究代表者）石田和子（研究分担者）他：化学療法による末梢神経障害への包括的ケアマネジメント介入とその評価科学研究費 基盤研究 B（2016～）

石田順子（研究代表者）石田和子（研究分担者）他：がん患者と家族の家族機能を良好にするための患者・家族支援モデルの構築 基盤研究 C（2016年～）

高柳 智子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

高柳智子(2016)：回復期脳血管疾患患者のベッド・車椅子間移乗における遠位見守り，日本脳神経看護研究学会誌，39(1)，131-139. (査読有)

神保佳枝，南雲みどり，平広実，高柳智子(2016)：急性期脳血管障害患者の看護計画にFIMを導入した効果，平成27年度新潟県立看護大学看護研究交流センター活動報告書，75-78. (査読無)

3. 著書

高柳智子(2017)：脳・神経系の解剖生理の基礎知識，貝瀬友子 真野響子 編集協力，看護学生のための疾患別看護過程1 第2版，214-215，メヂカルフレンド社，東京.

高柳智子(2017)：脳梗塞の基礎知識，貝瀬友子 真野響子 編集協力，看護学生のための疾患別看護過程1 第2版，216-223，メヂカルフレンド社，東京.

平山ゆずり，宮川美香，小見美菜，高柳智子(2017)：脳梗塞患者の看護過程，貝瀬友子 真野響子 編集協力，看護学生のための疾患別看護過程1 第2版，224-237，メヂカルフレンド社，東京.

峰村奈津美，坂田智佳子，高柳智子(2017)：くも膜下出血の基礎知識，貝瀬友子 真野響子 編集協力，看護学生のための疾患別看護過程1 第2版，238-245，メヂカルフレンド社，東京.

峰村奈津美，坂田智佳子，高柳智子(2017)：くも膜下出血患者の看護過程，貝瀬友子 真野響子 編集協力，看護学生のための疾患別看護過程1 第2版，246-259，メヂカルフレンド社，東京.

高柳智子(2017)：脳腫瘍の基礎知識，貝瀬友子 真野響子 編集協力，看護学生のための疾患別看護過程1 第2版，260-267，メヂカルフレンド社，東京.

高柳智子(2017)：脳腫瘍患者の看護過程，貝瀬友子 真野響子 編集協力，看護学生のための疾患別看護過程1 第2版，268-281，メヂカルフレンド社，東京.

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

**【学会等における活動】**

なし

**【社会活動】**

- ・上越市情報公開・個人情報保護制度審議会委員
- ・上越地域消防事務組合情報公開・個人情報保護制度審議会委員

**【学内教育活動】**

学部：ライフステージと看護，成人看護学Ⅰ，成人看護学Ⅱ，成人看護学演習，成人看護学実習，総合実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ

大学院：看護学研究法，成人看護学特論，成人看護学援助論Ⅰ，成人看護学援助論Ⅱ，成人看護学特別演習，看護学領域別特別研究

**【学内委員会等の活動】**

紀要委員会委員長，倫理委員会副委員長，教務委員会，教学小委員会，看護研究交流センター特別研究部門(地域政策課題)リーダー，法人ワーキング，博士後期課程解説検討委員会

**【外部資金獲得】**

高柳智子（研究代表者），科学研究費 基盤研究C「脳血管疾患患者の移乗時見守りから自立へのプロセスを支援するケアプロトコルの開発」，課題番号 26463347，（2014年度－2017年度）

酒井 禎子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

金井ちづる, 藤井喜久子, 梅沢和美, 堀川好美, 酒井 禎子(2016): 糖尿病患者の冬期間の運動療法に関する実態調査, 平成 27 年度看護研究交流センター活動報告書, 47-50. (査読無)

3. 著書

なし

4. 学会発表

山川悦子, 尾矢博子, 高野麻里緒, 桑原香織, 喜多村真由美, 庄司なおみ, 廣川利恵, 酒井禎子(2016.10.20): 病院の近隣地域におけるフィールドワーク研修を通じた新人看護師の学び, 第 55 回全国自治体病院学会. (富山)

尾矢博子, 山川悦子, 高野麻里緒, 桑原香織, 喜多村真由美, 庄司なおみ, 廣川利恵, 酒井禎子(2016.10.20): 新設病院における新人看護師教育体制の構築, 第 55 回全国自治体病院学会. (富山)

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・ 日本死の臨床研究会関東甲信越支部 役員
- ・ 聖路加看護学会 評議員
- ・ 日本緩和医療学会 教育・研修委員会 ELNEC-J WPG 員
- ・ 日本がん看護学会 代議員

【社会活動】

- ・ 医療の心を考える会パート 3 世話人
- ・ 魚沼基幹病院看護部特任教育コーディネーター
- ・ 日本死の臨床研究会第 23 回関東甲信越支部大会事務局・企画委員 (2016. 6)
- ・ 独立行政法人労働者健康福祉機構新潟労災病院看護部教育研修「研究計画書作成の基礎知識」講師 (2016. 7)
- ・ 新潟県立看護大学看護研究交流センターどこでもカレッジ公開講座 第 5 回 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム in 上越「エンド・オブ・ライフ・ケアに関わ



- る看護師のための研修会」講師（2016.7）
- ・平成28年度新潟県看護教員養成講習会「臨地実習指導方法演習」講師（2016.7～8）
  - ・金沢大学医科大学病院平成28年度ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム講師（2016.8）
  - ・平成28年度新潟県立がんセンター新潟病院主催ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム講師（2016.8）
  - ・2016年度第1回ELNEC-J 指導者フォローアップ研修会講師・ファシリテーター（2016.9）
  - ・第16回ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラム講師（2016.10）
  - ・新潟県立中央病院緩和ケア研修会ファシリテーター（2016.10）
  - ・平成28年度新潟大学「エンド・オブ・ライフ・ケア研修会－ELNEC-J コアカリキュラムを活用した看護職のための学び直し－」講師（2016.12）
  - ・第17回ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラム講師（2017.2）
  - ・独立行政法人労働者健康福祉機構新潟労災病院看護部教育研修「研究発表会」講師（2017.3）

#### 【学内教育活動】

学部：成人看護学Ⅰ・Ⅱ，成人看護学演習，成人看護学実習，専門ゼミナールⅠ・Ⅱ，総合実習

大学院：がん看護学特論Ⅰ・Ⅱ，がん看護学特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，がん治療看護介入演習Ⅰ・Ⅱ，がん高度実践看護実習Ⅰ，専門分野別課題実習（がんCNSⅡ），専門分野別課題研究（がんCNS），看護学領域特別研究．

#### 【学内委員会等の活動】

学生委員会委員長，国家試験対策・就職委員会，倫理委員会

#### 【外部資金獲得】

なし

山田 正実

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

山田正実, 片平伸子, 飯吉令枝, 内藤みほ, 石岡幸恵, 高島葉子, 岡村典子 (2017) : 看護学生が行う災害ボランティア活動のための<ハンドマッサージ研修>の効果と課題ー学生がコミュニケーションをとりながらハンドマッサージを相互に提供し合う体験からの気づきー, 新潟県立看護大学紀要 6, 1-8. (査読有)

3. 著書

赤羽秀徳, 阿部篤子, 飯国紀一郎, 他 14 名, 山田正実 (2017) : 新看護学 10 成人看護 [2] 第 12 版第 5 刷, 医学書院, 東京.

4. 学会発表

山田正実, 長谷川雄司, 坂田智佳子, 吉澤千智, 小原竜軌, 飯吉令枝, 平澤則子, 坂井邦彦 (2016. 10. 11) : COPD 在宅療養者の冬期のセルフマネジメント支援ー日誌管理と室内運動指導を中心にー, 第 26 回呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, (横浜市).  
小林綾子, 山田正実, 飯田智恵, 武田織枝, 松倉久枝 (2016. 7. 17) : 家庭で実践できる減塩食の継続に向けた健康教室の効果の検討ー講義・調理実習・グループ討議を取り入れてー, 第 10 回日本慢性看護学会学術集会, (東京都).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護学会会員
- ・日本家族看護学会会員
- ・日本家政学会家族関係学部会会員
- ・看護質的統合法 (N-KJ 法) 研究会会員
- ・日本在宅ケア学会会員
- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会会員
- ・日本禁煙科学会会員
- ・日本災害看護学会会員

【社会活動】

- ・新潟県立看護大学青年赤十字奉仕団事務局

- ・日本赤十字社防災ボランティア地区リーダー
- ・看護研究交流センター出前講座講師 5 回実施

**【学内教育活動】**

学部：成人看護学Ⅰ，成人看護学Ⅱ，成人看護学演習，成人看護学実習，総合実習，  
専門ゼミナールⅠ・Ⅱ，看護研究法

大学院：なし

**【学内委員会等の活動】**

学生委員，入試・広報副委員長，災害時看護支援特別委員長，  
看護研究交流センター先駆的学習支援部門員

**【外部資金獲得】**

平成 25 年～28 年度科学研究費助成事業基盤研究 C 課題番号 25463422 研究代表者

飯田 智恵

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

長澤聡子, 飯田智恵, 堀越悦子 (2016.8.4) : 静脈血栓塞栓症予防のための看護ケアに関する知識と看護実践の実態と課題, 第47回日本看護学会(看護教育)学術集会, (滋賀).

小林綾子, 山田正実, 飯田智恵, 武田織江, 松倉久枝 (2016.7.16) : 家庭で実践できる減塩食の継続に向けた健康教室の効果の検討ー講義・調理実習・グループ討議を取り入れてー, 第10回日本慢性看護学会学術集会, (東京).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本看護研究学会
- ・日本在宅ケア学会
- ・日本がん看護学会

【社会活動】

- ・呼吸器のフィジカルアセスメント (2016. 9. 3) : 平成28年度新潟県立看護研究交流センター公開講座講師 (180分)
- ・フィジカルアセスメント (2015. 11. 29) : 平成28年度糸魚川総合病院看護部現任教育研修講師 (90分)
- ・チーム医療と連携 (2016. 10. 7) : 平成28年度新潟県看護協会准看護師研修講師 (4コマ)
- ・第4回ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム「エンド・オブ・ライフ・ケアに関わる看護師のための研修会」(2016. 7. 16~17) : 新潟県立看護大学看護研究交流センターどこでもカレッジ公開講座ファシリテーター
- ・食と健康教室主催 (2016. 10. 15 / 11. 20 / 12. 17) : 食と健康の研究班 (自主グループ)

で開催した市民向け健康教室ファシリテーター（講義20分、調理実習・グループ討議を含めて各回180分）

**【学内教育活動】**

学 部：成人看護学Ⅰ，成人看護学Ⅱ，成人看護学演習，成人看護学実習，看護研究法，  
専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習

大学院：成人看護学援助論Ⅰ，成人看護学援助論Ⅱ，成人看護学特別演習

**【学内委員会等の活動】**

入試・広報委員会委員，ハラスメント防止特別委員会，保健指導員，看護研究交流センター看護職学習支援部門副部門長，自己点検・評価特別委員会（教員評価作業部会）

**【外部資金獲得】**

なし

小林 綾子

【研究活動】

1. 原著論文

山田真衣、水口陽子、永吉雅人、小林綾子（2016）：森林セラピーロードでの気候療法における心身リラクセス効果とその要因の検討 - 唾液アミラーゼ活性値と気分プロフィール検（POMS）から - ，新潟医学会誌，130（9），535-542，（査読有）。

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

小林綾子，山田正実，飯田智恵，松倉久枝，武田織枝（2016. 7. 16）：家庭で実践できる減塩食の継続に向けた健康教室の効果の検討-講義・調理実習・グループ討議を取り入れて-，第10回日本慢性看護学会学術集会，一橋大学，（東京）。

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本糖尿病教育看護学会員
- ・日本慢性看護学会員
- ・日本看護研究学会員
- ・日本看護科学学会員

【社会活動】

- ・地域課題研究指導
- ・出前講座講師  
「働き盛りの方へ 少し生活を見直してみませんか」（2016. 6. 23, 10. 12, 12. 14, 2017. 3. 23）
- ・新潟県立中央病院内科外来 糖尿病患者の看護相談の実施（毎月1回 3時間）
- ・新潟県看護協会 平成28年度看護職員臨地実習指導者養成講習会 実習指導方法論Ⅱ 演習 講師（2016. 9. 12, 9. 14, 9. 21, 9. 28）
- ・新潟県看護協会「看護学会発表集録」掲載予定論文の指導（6題）（2016. 7. 3～8. 31）
- ・食と健康教室「高血圧予防」市民を対象とした減塩に関する調理実習主催（2016. 10. 15, 11. 20, 12. 17）

**【学内教育活動】**

学部：成人看護学Ⅱ，成人看護学演習，成人看護学実習，総合実習，専門ゼミⅠ，専門ゼミⅡ，国家試験対策講義（成人看護学②）担当

大学院：なし

**【学内委員会等の活動】**

実習委員会，FD委員会，看護研究交流センター 特別研究部門(MGT)，保健指導員

**【外部資金獲得】**

なし

石原 千晶

**【研究活動】**

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

**【学会等における活動】**

- ・日本看護研究学会会員
- ・日本がん看護学会会員
- ・日本看護学教育学会会員
- ・日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会会員
- ・群馬がん看護研究会会員
- ・上越がんプロジェクトメンバー

**【社会活動】**

- ・新潟県立看護大学看護研究交流センターどこでもカレッジ公開講座 第5回ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラムin 上越「エンド・オブ・ライフ・ケアに関わる看護師のための研修会」実行委員
- ・日本死の臨床研究会 第23回関東甲信越支部大会実行委員

**【学内教育活動】**

学部：成人看護学演習，成人看護学Ⅱ，成人看護学実習，総合実習，専門ゼミナールⅠ，  
専門ゼミナールⅡ

大学院：がん看護学特別演習Ⅲ，がん高度実践看護実習Ⅰ，がん高度実践看護実習Ⅱ，  
がん高度実践看護実習Ⅲ，がん高度実践看護実習Ⅳ，がん高度実践看護実習Ⅴ，



**【学内委員会等の活動】**

国家試験対策・就職委員会，学生委員会，看護研究交流センター看護職学習支援部門，  
1 学年担任，障がい者差別解消法の施行に伴う対応要領ワーキングメンバー，  
学生相談関係者会議メンバー

**【外部資金獲得】**

神田清子(研究代表者)，石原千晶(研究分担者)，化学療法による末梢神経障害への包括  
的ケアマネジメント介入とその評価，平成28年度（2016年度）基盤研究(B)，研究課題  
番号：16H05574，2016年度-2018年度

石岡 幸恵

**【研究活動】**

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

山田正実，片平伸子，飯吉令枝，内藤みほ，石岡幸恵，高島葉子，岡村典子（2017）：看護学生が行う災害ボランティア活動のための＜ハンドマッサージ研修＞の効果と課題－学生がコミュニケーションをとりながらハンドマッサージを相互に提供し合う体験からの気づき－，新潟県立看護大学紀要 6，1-8.（査読有）

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

**【学会等における活動】**

- ・日本看護研究学会
- ・日本がん看護学会
- ・日本緩和医療学会
- ・日本臨床倫理学会
- ・日本乳がん看護研究会
- ・日本死の臨床研究会

**【社会活動】**

なし

**【学内教育活動】**

学部：成人看護学演習，総合実習，専門ゼミナールⅠ，成人看護学Ⅱ，成人看護学実習  
大学院：専門分野別課題実習（がんCNSⅠ・Ⅱ），がん看護学特別演習Ⅲ，がん高度実践看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

**【学内委員会等の活動】**

入試広報委員会，研究推進委員会

**【外部資金獲得】**

なし

大崎 麻美

**【研究活動】**

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

**【学会等における活動】**

なし

**【社会活動】**

日本救急医学会 ICLS インストラクター

**【学内教育活動】**

学部：成人看護学演習，成人看護学実習，総合実習

大学院：なし

**【学内委員会等の活動】**

看護研究交流センター 先駆的学習支援部門

**【外部資金獲得】**

なし

相澤 達也

**【研究活動】**

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

**【学会等における活動】**

- ・上越がんプロジェクト (JCAP)

**【社会活動】**

- ・日本死の臨床研究会第23回関東甲信越支部大会 (新潟) スタッフ (2016.6)
- ・第8回新潟県立中央病院緩和ケア研修会 (PEACE) ファシリテーター (2016.10)

**【学内教育活動】**

学部：成人看護学演習，成人看護学実習，総合実習

大学院：なし

**【学内委員会等の活動】**

看護研究交流センター 看護職学習支援部門

**【外部資金獲得】**

なし

坂田 智佳子

**【研究活動】**

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

峰村奈津美, 坂田智佳子, 高柳智子(2017): くも膜下出血の基礎知識, 貝瀬友子 真野響子 編集協力, 看護学生のための疾患別看護過程 1 第2版, 238-245, メヂカルフレンド社, 東京.

峰村奈津美, 坂田智佳子, 高柳智子(2017): くも膜下出血患者の看護過程, 貝瀬友子 真野響子 編集協力, 看護学生のための疾患別看護過程 1 第2版, 246-259, メヂカルフレンド社, 東京.

4. 学会発表

山田正実, 長谷川雄司, 坂田智佳子, 吉澤千智, 小原竜軌, 飯吉令枝, 平澤則子, 坂井邦彦 (2016. 10. 11): COPD 在宅療養者の冬期のセルフマネジメント支援—日誌管理と室内運動指導を中心に—, 第26回呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会.(横浜市).

5. その他の研究活動

なし

**【学会等における活動】**

なし

**【社会活動】**

なし

**【学内教育活動】**

学部: 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習

大学院: なし

**【学内委員会等の活動】**

看護交流センター 地域貢献部門

**【外部資金獲得】**

なし

大久保 明子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

大久保明子, 小山千加代 (2016. 12. 10) : 小児がんの子どもの死を契機とした看護師の態度変容, 第36回日本看護科学学会学術集会. (東京).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本小児看護学会
- ・日本小児保健学会
- ・日本小児がん看護学会
- ・日本がん看護学会
- ・日本看護教育学会
- ・日本死の臨床研究会
- ・日本家族看護学会
- ・臨床死生学会
- ・新潟小児看護研究会 会長

【社会活動】

- ・上越市子どもの人権委員会委員
- ・子どもを亡くした遺族の会「わかばの会」主催者
- ・上越教育大学 非常勤講師
- ・新潟県看護協会 看護学会委員長
- ・看護研究交流センター出前講座：真行寺幼稚園 保護者向け研修会 (2016. 5. 24)
- ・看護研究交流センター出前講座：上越カトリック天使幼稚園 保護者向け研修会 (2016. 6. 30)
- ・看護研究交流センター出前講座：上越市春日謙信交流館 保護者向け研修会

(2016. 10. 28)

- ・看護研究交流センター出前講座：三和地区公民館 保護者向け研修会 (2016. 11. 23)
- ・柏崎二葉幼稚園：子どもの急病と事故の対応 幼稚園教諭向け講演 (2016. 6. 30)
- ・NPO 法人マミーズネット主催：0～1 歳児の保護者向け講演 (2016. 11. 29)
- ・上越市立吉川中学校：看護体験を通して命を考える(中学 3 年生対象)講演(2016. 12. 15)

**【学内教育活動】**

学 部：小児看護学Ⅰ，小児看護学Ⅱ，小児看護学演習，小児看護学実習Ⅰ，小児看護学実習Ⅱ，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習，ライフステージと看護

大学院：小児看護学特論，小児看護学援助論Ⅰ，小児看護学援助論Ⅱ，小児看護学特別演習，看護学領域別特別研究

**【学内委員会等の活動】**

教務委員会副委員長，入試・広報委員会副委員長，研究推進委員会副委員長，看護研究交流センター 地域貢献部門

**【外部資金獲得】**

なし



北村 千章

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

北村千章, Elderton Simon J.H, 中込さと子, 永吉雅人, 山田真衣 (2016) : 22q11.2 欠失症候群の人々のための長期的なケアマネジメントに関する文献レビュー, 日本遺伝看護学会誌, 15(1), 60-68, (査読有) .

山岸大祐, 藤木香苗, 北村千章 (2016) : 消火器系疾患における手術後の患者が感じる苦痛, 長野県看護研究学会誌, 37 (1) , 32-35, (査読有) .

内本さえ子, 松沢麻美, 北村千章 (2016) : 2 型糖尿病患者に関わる看護師の困難感, 長野県看護研究学会誌, 37 (1) , 76-78, (査読有) .

3. 著書

なし

4. 学会発表

北村千章, Elderton Simon, 林 伸彦, 中込さと子 (2016. 9. 24) : Children's Hospital of Philadelphia 22q and You Center での調査報告, 日本遺伝看護学会第 14 回学術大会. (新潟県) .

北村千章, 富岡由紀子, 林 伸彦 (2016. 9. 24) : Cohen 症候群と診断されたきょうだいの事例報告, 日本遺伝看護学会 第 14 回学術大会. (新潟県) .

北村千章, Elderton Simon, 桐生徹, 片桐史裕, 阿部隆幸 (2016. 11. 19) : 22q11.2 欠失症候群をもつ子どもたちの現状と課題-医療と学校の連携と協同-, 第 2 回臨床教科教育学会研究会. (新潟県) .

内本さえ子, 松沢麻美, 北村千章 (2016. 10. 1) : 2 型糖尿病患者教育に関わる看護師の困難感, 長野県看護研究学会. (長野県) .

山岸大祐, 藤木早苗, 北村千章 (2016. 10. 1) : 手術後の患者が感じる苦痛, 第 37 回長野県看護研究学会. (長野県) .

北村千章, 西條竜也, 猪又竜 (2017. 1. 13) : 重症先天性心疾患をもつ子どもがひとり立ちするまでに育てた母親のライフストーリー, 日本成人先天性心疾患学会. (三重県) .

5. その他の研究活動

文部科学省特別選定 ALS 協会主催

映画上映会&シンポジウム 「風は生きよという」シンポジスト&パネリスト

全国心臓病の子どもを守る会 親子のつどい シンポジスト

臨床教科教育学会セミナー「医療・社会・学校に連携－特別な教育支援が必要な子どもたちへの支援の方向性－」ワークショップ シンポジスト

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本小児看護学会
- ・日本遺伝看護学会
- ・日本家族看護学会
- ・日本看護学教育学会
- ・成人先天性心疾患学会
- ・新潟小児看護研究会（役員）
- ・臨床教科教育学会

【社会活動】

- ・NPO法人 親子の未来を支える会 理事
- ・22 HEART CLUB アドバイザー
- ・東京都心臓病の子どもを守る会 サマーキャンプ医療スタッフ
- ・全国心臓病者友の会 全国大会医療スタッフ
- ・長野県長野看護専門学校 非常勤講師 小児援助論
- ・医療的ケアの必要な子どもたちへのボランティアサポート
- ・上越市ファミリーサポートセンター主催講演会講師「赤ちゃんの遊びと育ち」
- ・中学生へのいのち教育講師  
(長野県須坂市相森中学校, 長野県小布施町小布施中学校, 長野県飯綱町飯綱中学校,  
長野県飯綱町牟礼東小学校)
- ・上越看護研究発表会実行委員
- ・長野県中野西高等学校 ユネスコ week セミナー講師
- ・新潟県立看護大学地域センター事業 平成 28 年度 出前講座
  - 1 上越市教育委員会名立分室 親子教室講師  
しあわせってどこにあるの? (2016 年 4 月 16 日)
  - 2 上越市真行寺幼稚園 保護者会講師  
しあわせってどこにあるの? (2016 年 9 月 12 日)
  - 3 上越天使幼稚園 保護者会講師  
しあわせってどこにあるの? (2016 年 11 月 10 日)
  - 4 上越市立安塚小学校 親子教室講師  
健やか人生を送るための習慣術 (2016 年 11 月 9 日)
  - 5 妙高市立にしき特別支援学級 保護者会講師  
あなたの性 (いのち) 大切にしてほしい理由 (2016 年 11 月 14 日)
  - 6 上越市柿崎地区総合事務所教育文化グループ 子育て講演会講師  
しあわせってどこにあるの? (2016 年 11 月 26 日)

- 7 戸野目小学校 授業参観日講師  
あなたの性（いのち）大切にしてほしい理由（2016年12月5日）
- 8 コープにいがた 講師  
ミセスの保健室心の健康（2016年12月12日）
- 9 上杉小学校 授業参観講師  
あなたの性（いのち）大切にしてほしい理由（2017年2月20日）
- 10 名立区名立保育園 保護者会講師  
しあわせってどこにあるの？（2017年2月24日）

**【学内教育活動】**

学部：小児看護学Ⅱ，小児看護学演習，小児看護学実習Ⅰ，小児看護学実習Ⅱ，  
専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習  
大学院：なし

**【学内委員会等の活動】**

学生委員会，国家試験対策委員会，看護研究交流センター地域課題研究開発部門，  
学年担任（3学年）

**【外部資金獲得】**

北村千章（研究代表者） 科学研究費助成事業挑戦的萌芽研究（2015年～2017年）  
「22q11.2欠失症候群をもつ人々のためのケアガイドの理論的枠組みの構築」

山田 真衣

**【研究活動】**

1. 原著論文

山田真衣, 水口陽子, 永吉雅人, 小林綾子 (2016) : 森林セラピーロードでの気候療法における心身リラクセス効果とその要因の検討 - 唾液アミラーゼ活性値と気分プロフィール検 (POMS) から -, 新潟医学会誌, 130 (9) , 535-542, (査読有) .

2. その他の論文

北村千章, Elderton Simon J.H, 中込さと子, 永吉雅人, 山田真衣 (2016) : 22q11.2 欠失症候群の人々のための長期的なケアマネジメントに関する文献レビュー, 日本遺伝看護学会誌, 15(1), 60-68, (査読有) .

3. 著書

なし

4. 学会発表

北村千章, Elderton Simon J.H, 山田真衣, 永吉雅人, 水落芳明, 桐生徹, 片桐史裕, 阿部孝之 (2016.11.19) : 22q11.2 欠失症候群をもつ子どもたちの現状と課題 -医療と学校の連携と協同-, 臨床教科教育学会, (新潟) .

5. その他の研究活動

なし

**【学会等における活動】**

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本小児看護学会
- ・ 日本家族看護学会
- ・ 日本看護学教育学会
- ・ 日本小児保健協会
- ・ 新潟小児看護研究会
- ・ 日本精神衛生学会
- ・ 日本遺伝看護学会
- ・ 新潟看護ケア研究学会
- ・ 新潟医学会

**【社会活動】**

- ・ 新潟小児看護研究会役員

**【学内教育活動】**

学部：小児看護学Ⅱ，小児看護学演習，小児看護学実習Ⅰ・Ⅱ，専門ゼミナールⅠ，  
専門ゼミナールⅡ，総合実習  
大学院：なし

**【学内委員会等の活動】**

実習委員会，図書委員会，ハラスメント防止特別委員会，看護研究交流センター 特別研究部門(地域健康支援)

**【外部資金獲得】**

北村千章（研究代表者），山田真衣（研究分担者），22q11.2欠失症候群をもつひとびとのためのケアガイドの理論的枠組みの構築，科学研究費補助金 萌芽研究課題番号：15K11667，2015年度～2017年度

野澤 祥子

**【研究活動】**

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

野澤祥子, 住吉智子 (2016) : 慢性疾患をもつ子どもの将来を見据えたデザイン, 日本デザイン学会誌 デザイン学研究特集号 子どものためのデザイン 03, 24-1 (93), 6-9, (査読無) .

3. 著書

なし

4. 学会発表

野澤祥子, 目黒詩織, 坪川麻樹子, 五十嵐真理, 住吉智子 (2016. 7. 23) : 先天性心疾患児のセルフ・アドボカシー育成に向けた母親の役割変化のプロセス, 日本小児看護学会 第 26 回学術集会, (別府) .

5. その他の研究活動

なし

**【学会等における活動】**

日本小児看護学会

**【社会活動】**

新潟小児看護研究会役員, 事務局

**【学内教育活動】**

学部 : 小児看護学演習, 小児看護学実習 I ・ II, 総合実習

大学院 : なし

**【学内委員会等の活動】**

ハラスメント相談員

**【外部資金獲得】**

なし

高島 葉子

【研究活動】

1. 原著論文

坂詰朱美, 塚田文枝, 田中亜裕美, 相羽綾子, 古澤絵美, 廣瀬洋美, 柳澤麻衣, 栗崎裕子, 高島葉子, 高塚麻由, 永吉雅人(2016): 新生児の臍帯ケアをアルコール消毒から水分拭き取りに切り替えた効果, 第46回看護論文集ヘルスプロモーション, 69-72, (査読有).  
山田正実, 片平伸子, 飯吉令枝, 内藤みほ, 石岡幸恵, 高島葉子 (2017): 看護学生が行う災害ボランティア活動のための〈ハンドマッサージ研修〉の効果と課題ー学生がコミュニケーションをとりながらハンドマッサージを相互に提供し合う体験からの気づきー, 新潟県立看護大学紀要, 6, 1-8, (査読有).

2. その他の論文

青木美佐子, 田村まゆみ, 鈴木裕美子, 池田章子, 高塚麻由, 高島葉子 (2016): 切迫早産の入院治療により長期臥床を要する妊婦が求める看護ケア, 平成27年度看護研究交流センター活動報告書, 67-70, (査読無).

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・ 日本助産学会
- ・ 日本母性衛生学会
- ・ 日本思春期学会
- ・ 日本災害看護学会
- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本助産師教育協議会
- ・ 日本医療の質・安全学会
- ・ 日本母乳の会

【社会活動】

- ・ 上越市 子ども・子育て会議 会長 (2014.4～)
- ・ 上越教育大学 非常勤講師 (2014.4～)

- ・新潟母乳育児をすすめる会幹事
- ・母乳育児シンポジウム実行委員
- ・母乳育児シンポジウム 総合司会 (2016. 7. 30-31)
- ・日本看護協会会員
- ・クリニカルラダーレベルⅢ認証申請に関する CTG の読み方研修会講師：2016. 7.
- ・NCPR B コース認定研修会企画運営 (2016. 9. 24)
- ・「にしかん助産師と語る会」講師 妊産褥婦と乳がん (2016. 10. 22)
- ・看護研究交流センター どこでもカレッジ公開「自分を活かし後輩を活かすプリセプター／パートナーシップのあり方」講座企画運営 (2016. 10. 29)
- ・災害看護学生研修企画運営 クロスロードから学ぶ災害ボランティア (2016. 12. 15)
- ・お褒めの凶書

#### 【学内教育活動】

学部：ライフステージと看護，母性看護学Ⅰ，母性看護学Ⅱ，母性看護学演習，母性看護学実習，総合実習，助産学Ⅰ，助産学Ⅱ，助産学実習，専門ゼミナールⅠ・Ⅱ  
 大学院：看護コンサルテーション論

#### 【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員長，教務委員会，災害時看護支援特別委員会副委員長，看護研究交流センター 特別研究部門（卒業生支援調査リーダー），法人ワーキング，教育研究審議会，研究科委員会，  
 大学教育評価機構提出の報告書（学生支援）

#### 【外部資金獲得】

科学研究費補助金（基盤研究 C）

高島葉子（研究代表者）：助産事故後の当事者間の信頼関係をつなぐ「分岐」を意識した初期対応モデルの構築，課題番号 25463492，（2013 年度－2015 年度）2016 年度延長



西田 絵美

**【研究活動】**

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

西田絵美 (2016.5.22) : 看護における〈ケアリング〉の基底原理への視座—〈ケアリング〉とは何か—, 日本看護倫理学会第9回年次大会. (京都)

西田絵美 (2016.8.22) : ネル・ノディングズのケアリング論に関する先行研究の動向—看護におけるケアリング教育の探求—, 日本看護学教育学会第26回学術集会. (東京)

5. その他の研究活動

なし

**【学会等における活動】**

- ・日本看護学教育学会会員
- ・日本看護倫理学会会員
- ・日本看護研究学会会員
- ・日本医学哲学倫理学会会員
- ・関西教育学会会員

**【社会活動】**

なし

**【学内教育活動】**

学部：母性看護学Ⅱ，母性看護学実習

大学院：なし

**【学内委員会等の活動】**

国際交流委員会，入試・広報委員会，研究推進委員会

【外部資金獲得】

なし

中澤 紀代子

**【研究活動】**

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

**【学会等における活動】**

- ・日本母性衛生学会
- ・日本助産学会
- ・日本母性看護学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本遺伝看護学会

**【社会活動】**

日本看護協会学内連絡員

**【学内教育活動】**

学部：助産学Ⅰ，助産学実習，母性看護学Ⅱ，母性看護学演習，母性看護学実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習

大学院：なし

**【学内委員会等の活動】**

国家試験対策・就職委員会，看護研究交流センター 看護職学習支援部門，衛生委員会

**【外部資金獲得】**

なし

高塚 麻由

【研究活動】

1. 原著論文

坂詰朱美, 塚田文枝, 田中亜裕美, 相羽綾子, 古澤絵美, 廣瀬洋美, 柳澤麻衣, 栗崎裕子, 高島葉子, 高塚麻由, 永吉雅人(2016): 新生児の臍帯ケアをアルコール消毒から水分拭き取りに切り替えた効果, 第46回看護論文集ヘルスプロモーション, 69-72, (査読有).

2. その他の論文

青木美佐子, 田村まゆみ, 鈴木由美子, 池田章子, 高塚麻由, 高島葉子 (2016): 切迫早産の入院治療により長期臥床を要する妊婦が求める看護ケア, 平成27年度看護研究交流センター活動報告書, 67-70, (査読無).

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本助産学会
- ・日本母性衛生学会
- ・日本フォレンジック看護学会

【社会活動】

- ・特定非営利活動法人 女性の安全と健康のための支援教育センター 会員
- ・新潟県立看護大学助産学第4回新生児蘇生法Bコース講習会開催. 倉辻言講師. 新潟県立看護大学, 助産学講義室・実習室. (2016. 9. 24. 13:00~17:30)
- ・こどものそだちと虐待を学ぶ研修会 2016. 企画・開催. (上越市). (2016. 10. 22. 10:00~16:00)
- ・CAP・じょうえつ 賛助会員

【学内教育活動】

学部: 助産学 I, 助産学実習, 専門ゼミナール I, 専門ゼミナール II, 総合実習, 母性看護学演習, 母性看護学実習

大学院: なし

**【学内委員会等の活動】**

図書委員会，実習委員会，看護研究交流センター 看護職学習支援部門

**【外部資金獲得】**

なし

天谷 まり子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

Mariko Amaya (2017.3.8~12) : Lifestyle factors supporting dietary therapy in pregnant Japanese women with diabetes, International DIP Symposium on Diabetes, Hypertension, Metabolic Syndrome & Pregnancy, (Barcelona) .

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本助産学会
- ・日本母性衛生学会
- ・日本母性看護学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本発育発達学会
- ・新潟母性衛生学会

【社会活動】

- ・本学看護研究交流センター事業、出前講座開設 (2 講座)  
「助産師が伝えるお産の知識 ー緊急時、いざという時のためにー」  
「助産師が伝える妊娠糖尿病の知識 ーみんなで問題に取り組むためにー」
- ・ALSO (Advanced Life Support In Obstetrics) -Japan 会員
- ・日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法普及事業新生児蘇生法修了認定
- ・日本助産評価機構 助産実践能力習熟段階レベルⅢ (アドバンス助産師)

【学内教育活動】

学部：母性看護学Ⅱ、母性看護学演習、母性看護学実習、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ、総合実習、助産学実習

大学院：なし

**【学内委員会等の活動】**

学生委員会、実習委員会、看護研究交流センター地域社会貢献部門

**【外部資金獲得】**

なし

小泉 美佐子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

辻村弘美, 小泉美佐子 (2017) : 施設で過ごす認知症高齢者への「改訂版おだやかスケール (18項目版 DEOS)」の適用. 日本看護研究学会, 39(4), 89-96, (査読有).

竹内真奈美, 小泉美佐子, 原等子 (2017) : 障害者病棟における身体拘束を減少させる看護ケア改善の取り組み. 高齢者虐待防止研究, 13(1), 66-75, (査読有).

3. 著書

小泉美佐子 (2017) : 准看護師・消化酵素・静脈内注射・静脈瘤・食行動異常・食事療法・食生活指針・褥瘡・糖尿病食事療法・保健師助産師看護師法 : 一般社団法人日本認知症ケア学会認知症ケア用語編纂委員会編, 認知症ケア用語辞典, ワールドプランニング, 東京.

4. 学会発表

大口洋子, 原等子, 小泉美佐子 (2016.7.24) : 豪雪地帯に暮らす後期高齢者のストレスの把握, 日本老年看護学会第 21 回学術集会, (さいたま市).

布澤奈緒美, 桑原久枝, 原等子, 小泉美佐子 (2016.7.24) : 高齢患者に対する退院支援の評価と課題・退院準備状況と自宅での療養状況の調査から, 日本老年看護学会第 21 回学術集会, (さいたま市).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護研究学会 (評議員)
- ・日本老年看護学会 (評議員)
- ・日本認知症ケア学会 (代議員・学会誌査読委員)
- ・日本老年社会学会 (学会誌査読委員)
- ・日本老年泌尿器科学会 (評議員)
- ・日本創傷・オストミー・失禁管理学会 (評議員)
- ・日本排尿機能学会 (会員)
- ・日本高齢者虐待防止学会 (会員)
- ・日本保健医療福祉連携教育学会 (会員)
- ・日本老年看護学会第 21 回学術集会・口演発表座長 (2017 年 7 月 23 日)



### 【社会活動】

- ・公立大学協会看護・保健医療部会（大学代表者）
- ・上越教育大学研究倫理審査委員会委員
- ・上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会（大学代表者）

### 【学内教育活動】

学部：老年看護学Ⅰ，老年看護学Ⅱ

大学院：看護学研究法，看護コンサルテーション論，看護教育学，老年看護学特論Ⅰ，老年看護学特論Ⅱ，老年看護学特論Ⅲ，老年看護学特論Ⅳ，老年看護学特別演習Ⅰ，老年看護学特別演習Ⅱ，老年看護学特別演習Ⅲ，専門分野別課題研究（老年 CNS）

### 【学内委員会等の活動】

#### 1) 特別委員会

ハラスメント防止特別委員会（委員長），自己点検評価特別委員会（委員長），情報ネットワーク特別委員会（委員）

#### 2) 大学院小委員会

教学小委員会（委員）

#### 3) その他

平成 28 年度法人ワーキング（委員）

大学院博士後期課程設置準備委員会（副委員長→委員長）

公立大学法人新潟県立看護大学研究倫理規程の制定と倫理審査申請書及び研究計画書等のテンプレート作成に中心的に係る

### 【外部資金獲得】

なし

【研究活動】

1. 原著論文

Sonomi Okazaki, Naoko Hara, Akihiro Hashimoto (2016.9): Outcome on Green Tea Leaf Treatment for Hand Contracture in Long-Term Bedridden Elderly Patients: A Randomized Controlled Trial, International Journal of Advances in Science Engineering and Technology, ISSN: 2321-9009, 4(3), 38-41. (査読有)

2. その他の論文

村田悦子, 原等子 (2016) : 息子による介護と退院支援に関する研究, 平成 27 年度看護研究交流センター活動報告書, 27, 55-8. (査読無)

原等子 (2016) : 15 ひとりでは抱えきれない, 社会で見る認知症～認知症患者・家族団体のレシピ, 井階友貴編, もっと踏み込む認知症ケア 患者だけじゃない! 家族や地域の問題まで診る, 現場で活かせるレシピ集, G ノート増刊, 3(6), 1206-1211. (査読無)

竹内真奈美, 小泉美佐子, 原等子 (2017) : 障害者病棟における身体拘束を減少させる看護ケア改善の取り組み. 高齢者虐待防止研究, 13(1):66-75. (査読有)

3. 著書

本間昭総監修, 日本認知症ケア学会認知症ケア用語辞典編纂委員会, 原等子他 (2016.11) : 認知症ケア用語辞典, 一般社団法人日本認知症ケア学会認知症ケア用語辞典編纂委員会, ワールドプランニング, 東京.

4. 学会発表

加賀美亜矢子, 原等子, 荒井佐和子, 南佳織, 安藤亮, 片山禎夫 (2016.6.4) : 介護保険施設入所中の認知症高齢者の排便様式と BPSD についての一考察, 日本認知症ケア学会誌, 15(1), 199. 第 17 回日本認知症ケア学会大会 (神戸市)

Sonomi Okazaki, Naoko Hara, Akihiro Hashimoto (2016.7.12) : Outcome on Green Tea Leaf for Hand Contracture in Long-term Bedridden Elderly Patients: a randomized controlled trial, Proceedings of Academics World International Conference. 59th International Conference on Management and Information Technology (ICMIT) (Bander Seri Begawan. (Brunei Darussalam).

大倉由貴, 黒沢千賀子, 新保憲一, 原等子 (2016.7.23) : 認知症高齢者の生活リズム調整に向けた取り組み—ケアプロトコールとパーソンセンタードケアの視点から—, ポスター発表, 日本老年看護学会第 21 回学術集会. (さいたま市) .

村田悦子, 原等子 (2016.7.23) : 息子による自宅介護に対する退院支援—一般病院退院後の調査から見えてきたこと, 日本老年看護学会第 21 回学術集会, ポスター発表. (さいたま市) .

加賀美亜矢子, 原等子, 荒井佐和子, 安藤亮, 南佳織, 片山禎夫 (2016.7.24) : 介護保険

施設入所中の認知症高齢者の排便コントロールと BPSD についての関連, ポスター発表, 日本老年看護学会第 21 回学術集会. (さいたま市).

布澤奈緒美, 桑原久枝, 原等子, 小泉美佐子 (2016. 7. 24) : 高齢患者に対する退院支援の評価と課題—退院準備状況と自宅での療養状況の調査から—, ポスター発表, 日本老年看護学会第 21 回学術集会. (さいたま市).

大口洋子, 原等子, 小泉美佐子 (2016. 7. 24) : 豪雪地帯に暮らす後期高齢者のストレングスの把握, ポスター発表, 日本老年看護学会第 21 回学術集会. (さいたま市).

Sonoma Okazaki, Naoko Hara & Akihiro Hashimoto (2016.9.29-30) : Study on Effects of Green Tea-leaf Treatment for Hand Contractures in Long-Term Bedridden Elderly Patients, (Bangkok, Thailand).

## 5. その他の研究活動

公益社団法人認知症の人と家族の会 ADI2017 国際会議事務局 (2017.3) : 第 32 回国際アルツハイマー病協会国際会議プレイベント報告書 ～ともに新しい時代へ 日本から世界へ～日本の当事者団体・あつまる, 公益社団法人認知症の人と家族の会.

### 【学会等における活動】

- ・日本看護協会 会員 (1989～) [日本看護学会論文集 (在宅看護) 査読委員 (2014～)]
- ・日本老年社会科学会 (1999～)
- ・日本老年看護学会 (2002～) [論文査読委員(2009～)]
- ・日本認知症ケア学会 (2004～) [代議員(2010～評議員, 2015～), 論文審査委員 (2005～), 1 次試験問題作成委員 (2007～), 事例ジャーナル査読委員 (2007～)]
- ・日本口腔ケア学会 会員 (2005～) [評議員 (2006～), 編集委員および査読委員 (2005～), 用語委員会 (2009～)]
- ・日本老年歯学学会 (2009～)
- ・日本慢性看護学会 (2014～)

### [座長等]

- ・第 17 回日本認知症ケア学会大会, ポスター発表 生活環境・まちづくり (5 題) 座長, 神戸市(2016. 6. 4)
- ・日本老年看護学会第 21 回学術集会, ポスター発表 指定討論 A 介護予防/自立支援 (7 題), 座長, さいたま市 (2016. 7. 23)

### [査読]

- ・日本認知症ケア学会誌 1 本 (2016. 6～8)
- ・日本老年看護学会誌 2 本 (2016. 8, 2017. 1)
- ・日本看護学会論文集 (在宅看護) 3 本 (2016. 9～2017. 1)
- ・日本認知症ケア学会大会 4 本 (2017. 1)

### 【社会活動】

#### 1. 学外活動

- ・上越市高齢者見守り支援ネットワーク委員会委員 副委員長 (2011.4～)
- ・上越市地域包括支援センター協議会 副委員長 (2013.4～)
- ・公益社団法人認知症の人と家族の会 B 会員 (2004～, 2009～新潟支部世話人)
- ・公益社団法人認知症の人と家族の会 国際交流委員会委員 (2013～)
- ・ADI (世界アルツハイマー協会) 国際会議 2017 事務局員 (2015～)
- ・上越地域多職種連携有志勉強会 IPW-J 運営支援 (2014.10～)

## 2. 講演など

- ・JCV2016 春の公開講座 超高齢社会をいきいき生きる～これからのハッピーライフを考える～, 認知症～家族が, 自分になったとき～, JCV 本社スタジオ (2016.5.14)
- ・JCV2016 春の公開講座 超高齢社会をいきいき生きる～これからのハッピーライフを考える～, 認知症ケア最前線: 認知症の症状への対処法, JCV 本社スタジオ (2016.5.14)
- ・平成 28 年度第 1 回日本認知症予防学会新潟県支部講演会, 特別講演 認知症高齢者の食にかかわるケア, 燕三条地場産業振興センター リサーチコア (2016.5.15)
- ・看護研究交流センター出前講座 新潟県立妙高病院, 認知症の人の思いを知るためのコミュニケーション - 言葉より心に寄り添い広がる認知症ケア, 新潟県立妙高病院会議室 (2016.9.8)
- ・看護研究交流センター出前講座 社会福祉法人清里福祉会特別養護老人ホームみねの園, 認知症～家族が自分になったとき, 妙高市朝日町昭和会 (2016.9.11)
- ・看護研究交流センター出前講座 北本町 1 丁目ときわ会, 認知症, 家族が自分になったとき, 市内北本町 1 丁目町内会館 (2016.9.16)
- ・看護研究交流センター出前講座 社会福祉法人清里福祉会特別養護老人ホームみねの園, 認知症～家族が自分になったとき, 特別養護みねの園 (2016.10.22)
- ・看護研究交流センター出前講座 新井信用金庫, 認知症なんてこわくない - 安心して暮らせる街づくり 認知症の人と家族を地域で支える, 新井信用金庫本店ホール (2016.10.29)
- ・妙高市地域包括支援センター運営協議会, みょうこうケアフォーラム市民公開講座 一人でも多くの方が住みよい地域に「認知症カフェってなに?」講演②認知症とは? 本人と家族が抱えていること, 新井コミュニティセンター (2016.11.21)
- ・看護研究交流センター出前講座 板倉区カラオケ達者会, 認知症～家族が自分になったとき 地域でまちでできること, 板倉区コミュニティプラザ (2016.11.23)
- ・看護研究交流センター出前講座 NTT 退職者の会 上越地区協, 認知症～家族が自分になったとき, 予防もしたいけど, それでもなってしまったら, 上越市レインボープラザ (2017.3.14)

## 【学内教育活動】

学部：ライフステージと看護, 老年看護学Ⅰ, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 看護研究法

大学院：フィジカルアセスメント, 老年看護学特論Ⅰ, 老年看護学特論Ⅱ, 老年看護学特

論Ⅲ，老年看護学特論Ⅳ，老年看護学特別演習Ⅰ，老年看護学特別演習Ⅱ，老年看護学特別演習Ⅲ，老年高度実践看護実習Ⅰ，老年高度実践看護実習Ⅱ，老年高度実践看護実習Ⅲ，看護学領域別特別研究，専門分野別課題研究（老年 CNS）

**【学内委員会等の活動】**

教務委員会，実習委員会，入学小委員会，情報ネットワーク特別委員会

**【外部資金獲得】**

なし

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

日向園恵, 小野幸子, 出貝裕子, 河原畑尚美 (2016. 7. 23-24) : 地域医療支援病院における高齢患者への身体拘束を行わないための工夫, 日本老年看護学会第 21 回学術集会. (埼玉) .

出井理恵子, 出貝裕子, 河原畑尚美, 小野幸子 (2016. 7. 23-24) : 介護老人保健施設における高齢者と家族の退所先の意向が異なる場合の折り合いのつけ方, 日本老年看護学会第 21 回学術集会, (埼玉) .

鏡哲也, 河原畑尚美, 出貝裕子, 小野幸子 (2016. 7. 23-24) : 高齢患者のせん妄の予防および発症時のケアに関する研究－大腿骨骨折の手術を受ける高齢患者へのケアを通じて－, 日本老年看護学会第 21 回学術集会, (埼玉) .

橋本七海, 河原畑尚美 (2016. 9. 10-11) : 高齢者の要望に添った看護援助－言語障害を抱え意思表示の少ない高齢者への援助を振り返って－, 第 19 回北日本看護学会学術集会, (宮城) .

柴崎梢, 河原畑尚美 (2016. 9. 10-11) : 看護において対象に関心を寄せるとは一歩行に不安のあった高齢者への看護援助場面から－, 第 19 回北日本看護学会学術集会, (宮城) .

新沼裕菜, 河原畑尚美 (2016. 9. 10-11) : 高齢者の自律性を促す看護援助－自己の看護援助の振り返りから－, 第 19 回北日本看護学会学術集会, (宮城) .

工藤早貴, 河原畑尚美 (2016. 9. 10-11) : 高齢者が安心して在宅復帰を果たすために必要な看護援助－介護老人保健施設から在宅復帰した高齢者への援助場面の振り返りから－, 第 19 回北日本看護学会学術集会, (宮城) .

佐々木智美, 小野幸子, 出貝裕子, 河原畑尚美 (2016. 9. 10-11) : 高齢患者・家族と看護師 3 者が満足できる退院支援上の課題－A 病院回復期リハビリテーション病棟における退院支援に関する一取り組みより, 第 19 回北日本看護学会学術集会, (宮城) .

鏡哲也, 河原畑尚美, 出貝裕子, 小野幸子 (2016. 9. 10-11) : 高齢患者のせん妄の予防および発症時のケアに関する研究－大腿骨転子部骨折で手術を受けた C 氏へのケアの取り組みを通じて－, 第 19 回北日本看護学会学術集会, (宮城) .

## 5. その他の研究活動

なし

### 【学会等における活動】

- ・ 第 19 回北日本看護学会学術集会実行委員
- ・ 日本老年看護学会
- ・ 日本認知症ケア学会
- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本看護学教育学会
- ・ 日本感染看護学会
- ・ 日本死の臨床研究会
- ・ 日本災害看護学会
- ・ 日本循環器看護学会
- ・ 北日本看護学会
- ・ 大学病院の緩和ケアを考える会
- ・ 看護研究学会

### 【社会活動】

- ・ 上越地域多職種連携有志勉強会 IPW-J 運営支援
- ・ 平成 28 年度上越地域看護研究発表会 座長 (2016. 9. 24)
- ・ 看護研究交流センターどこでもカレッジ公開講座「誤嚥を防ぐポジショニングと食事と口腔ケア」研修スタッフ, 新潟県立看護大学(2016. 10. 9)

### 【学内教育活動】

学部：老年看護学Ⅱ, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ・Ⅱ  
大学院：老年看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 老年看護学特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 看護学領域別特別研究 専門分野別課題研究（老年 CNS）, 老年高度実践看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

### 【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会, 学生委員会, 看護研究交流センター 地域課題研究部門,  
障害者差別解消法の施行に伴う対応要領作成ワーキング

### 【外部資金獲得】

科学研究費（基盤 C）（2013 年～2016 年）「災害復興期における高齢者の健康上のニーズの経時的変化と支援方法に関する研究」研究代表者：河原畑尚美 分担者：小野幸子, 出貝裕子, 名古屋紘子, 出井理恵子

科学研究費（基盤 C）（2014 年～2016 年）「特別養護老人ホーム職員の適正配置とケア管理者育成のための教育プログラムの開発」研究代表者：小野幸子 分担者：河原畑尚美, 平木尚美, 出井理恵子

安藤 亮

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

加賀美亜矢子，原等子，荒井佐知子，安藤亮，南佳織，片山禎夫（2016.7.24）：介護保険施設入所中の認知症高齢者の排便コントロールと BPSD についての関連，日本老年看護学会 第 21 回学術集会．（さいたま市）．

加賀美亜矢子，原等子，荒井佐和子，南佳織，安藤亮，片山禎夫（2016.6.4）：介護保険施設入所中の認知症高齢者の排便様式と BPSD についての一考察，第 17 回日本認知症ケア学会大会 ，（神戸市）．

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本老年看護学会
- ・日本地域看護学会
- ・日本認知症ケア学会
- ・日本老年泌尿器科学会
- ・北関東医学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学部：老年看護学Ⅱ，老年看護学演習，老年看護学実習，総合実習，専門ゼミナールⅠ・Ⅱ

大学院：なし



**【学内委員会等の活動】**

入試・広報委員会委員，国家試験対策・就職委員会委員，看護研究交流センター 地域社会貢献部門員

**【外部資金獲得】**

なし

大倉 由貴

**【研究活動】**

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

大倉由貴, 黒澤千賀子, 新保憲一, 原等子 (2016.7.23) : 認知症高齢者の生活リズム調整に向けた取り組み～ケアプロトコールとパーソンセンタードケアの視点から～, 日本老年看護学会第21回学術集会. (さいたま市).

5. その他の研究活動

なし

**【学会等における活動】**

- ・日本老年看護学会
- ・日本認知症ケア学会

**【社会活動】**

- ・公益社団法人認知症の人と家族の会 正会員
- ・上越地域医療センター病院 ポジショニング研修 研修スタッフ補助

**【学内教育活動】**

学部：老年看護学実習

大学院：なし

**【学内委員会等の活動】**

看護研究交流センター 看護職学習支援部門員

**【外部資金獲得】**

なし

田口玲子

## 【研究活動】

### 1. 原著論文

### 2. その他の論文

安達寛人, 塩谷幸祐, 田口玲子 (2017) : 積雪寒冷・豪雪地域における環境の影響を受けている生活行動とサポートニーズに関する文献検討, 新潟看護ケア研究学会誌, 3, 21-28, (査読有).

塩谷幸祐, 安達寛人, 田口玲子, 境原三津夫 (2017) : 医療観察法通院医療機関における課題と対策, 新潟看護ケア研究学会誌, 3, 29-36, (査読有) .

### 3. 著書

なし

### 4. 学会発表

安達寛人, 塩谷幸祐, 田口玲子 (2016. 10. 15) : 積雪寒冷・豪雪の環境が人々の生活に与える影響に関する文献検討, 新潟看護ケア研究学会第8回学術集会, (新潟) .

塩谷幸祐, 安達寛人, 田口玲子, 境原三津夫 (2016. 10. 15) : 医療観察法通院医療機関における現状と課題についての検討, 新潟看護ケア研究学会第8回学術集会, (新潟) .

### 5. その他の研究活動

なし

## 【学会等における活動】

- ・新潟看護ケア研究学会 (評議員、新潟看護ケア研究学会誌査読委員)
- ・日本精神保健看護学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本看護研究学会
- ・日本カウンセリング学会
- ・日本カウンセリング学会 認定カウンセラー会
- ・日本心理臨床学会

## 【社会活動】

- ・新潟県精神保健福祉協会上越支部 平成28年度 評議員
- ・労働者健康福祉機構新潟労災病院 倫理委員会 平成28年度 委員
- ・労働者健康福祉機構新潟労災病院 医学系研究利益相反管理委員会 平成28年度 委員
- ・国立病院機構さいがた医療センター 平成28年度 看護研究グループ指導 講師

・看護大通信（上越かわらばん6月5日号）

**【学内教育活動】**

学部：精神看護学Ⅰ，精神看護学Ⅱ，精神看護学演習，精神看護学実習，看護倫理，  
総合実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ

大学院：精神看護学特論，精神看護学援助論Ⅰ，精神看護学援助論Ⅱ，精神看護学特別演  
習，看護倫理特論，がん看護学特別演習Ⅰ，看護コンサルテーション論

**【学内委員会等の活動】**

倫理委員会，教務委員会，入学小委員会（副委員長），教学小委員会

**【外的資金獲得】**

なし

後田 穰

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

安達寛人、後田穰(2016.8.20)：わが国最古の精神病院といわれる越後鷲森狂疾院の療養環境について、第30回日本看護歴史学会、(千葉県松戸市聖徳大学)。

5. その他の研究活動

個人研究調査活動(在日外国人の精神衛生に関する研究：後田穰)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・FMみょうこう 看護大だより プチ講座出演(2016.4.15) 「ポジティブ思考の勧め」
- ・研究指導(2016.4～2017.3)  
「急性期治療病棟入院患者へ早期からの地域移行支援導入を試みて」新潟県立精神医療センターA2病棟(大関幸子、若杉浩平、布川剛、大崎由紀子)
- ・NOUSAI 1月号「看護大からこんにちは」記事「ヒトはヒト、ジブンはジブン」という考え方(2017.1)
- ・看護研究交流センター「出前講座」「メディア依存について知ろう。よりよい生活のために」上越市立名立中学校(2017.2.21)

【学内教育活動】

学部：精神看護学Ⅱ、精神看護学演習、精神看護学実習、総合実習、専門ゼミナールⅠ、  
専門ゼミナールⅡ

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員、国家試験対策・就職委員会委員、看護研究交流センター 先駆的学習支

援部門員、ハラスメント相談員

**【外部資金獲得】**

なし

伊藤 ひかる

**【研究活動】**

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

**【学会等における活動】**

なし

**【社会活動】**

なし

**【学内教育活動】**

学部：精神看護学演習，精神看護学実習，総合実習

大学院：なし

**【学内委員会等の活動】**

看護研究交流センター 地域社会貢献部門

**【外部資金獲得】**

なし

安達 寛人

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

安達寛人, 塩谷幸祐, 田口玲子 (2017) : 積雪寒冷・豪雪地域における環境の影響を受けている生活行動とサポートニーズに関する文献検討, 新潟看護ケア研究学会誌, 3, 21-28. (査読有)

塩谷幸祐, 安達寛人, 田口玲子, 境原三津夫 (2017) : 医療観察法指定通院医療機関における課題と対策, 新潟看護ケア研究学会誌, 3, 29-36. (査読有)

Hisashi FUJITA, Hiroto ADACHI (2017) : Paleohealth based on dental pathology and cribra orbitalia from the ancient Egyptian settlement of Qau, Anthropological Science, 125(1), p35~42. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

安達寛人, 後田穰 (2016. 8. 20) : わが国最古の精神病院といわれる越後鶴森狂疾院の療養環境について, 日本看護歴史学会第30回学術集会 (千葉県) .

塩谷幸祐, 安達寛人, 田口玲子, 境原三津夫 (2016. 10. 15) : 医療観察法指定通院医療機関における現状と課題についての検討, 新潟看護ケア研究学会第8回学術集会(新潟県).

安達寛人, 塩谷幸祐, 田口玲子 (2016. 10. 15) : 積雪寒冷・豪雪の環境が人々の生活に与える影響に関する文献検討, 新潟看護ケア研究学会第8回学術集会 (新潟県) .

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本精神科看護協会
- ・日本精神医学史学会
- ・日本看護歴史学会
- ・新潟看護ケア研究学会

【社会活動】

- ・上越かわらばん 2016年1月掲載
- ・いきいきサロンラジオ告知 (2016.4.27)



**【学内教育活動】**

学部：精神看護学演習，精神看護学実習，総合実習  
大学院：なし

**【学内委員会等の活動】**

看護研究交流センター 地域社会貢献部門

**【外部資金獲得】**

なし

平澤則子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

前川絵里子, 平澤則子, 飯吉令枝, 高林知佳子, 川野英子 (2017) : 日本における多職種連携を測定する尺度に関する文献レビュー, 新潟県立看護大学紀要 6, 9-14, (査読有)

加藤梢, 宮川由紀子, 高野真弓, 平澤則子 (2017) : 小国地域における在宅看取りを支える取組とその課題, 保健師活動実践集, 63-67, 新潟県看護協会保健師職能委員会, (査読無)

3. 著書

なし

4. 学会発表

平澤則子 (2016. 8. 26) : A 地域に暮らす難病療養者と家族のソーシャル・キャピタルと生活満足度の関連, 第 21 回日本難病看護学会学術集会. (北海道当別町).

宮川由紀子, 高野真弓, 平澤則子 (2016. 11. 6) : A 地域の塩分と運動に関する生活実態, 第 75 回日本公衆衛生学会総会. (大阪市).

高野真弓, 宮川由紀子, 平澤則子 (2016. 11. 6) : A 地域の集落公民館における喫煙に関する実態調査, 第 75 回日本公衆衛生学会総会, (大阪市).

久保野裕子, 井上智代, 平澤則子 (2016. 10. 23) : 介護職の腰痛予防に関する支援ニーズ調査, 第 59 回日本産業衛生学会甲信越地方会総会, (福井市).

山田正実, 長谷川雄司, 坂田智佳子, 吉澤千智, 小原竜軌, 飯吉令枝, 平澤則子, 坂井邦彦 (2016. 10. 11) : COPD 在宅療養者の冬期のセルフマネジメント支援一日誌管理と室内運動指導を中心に-, 第 26 回呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, (横浜市).

平沢千津子, 荒木優子, 佐藤康子, 佐藤君子, 平澤則子 (2016. 12. 2) : 保健師が調整役となって進めた地域包括ケアシステムづくり, 新潟県看護協会看護学会, (新潟市).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本地域看護学会
- ・日本在宅ケア学会
- ・日本公衆衛生学会

- ・日本難病看護学会
- ・日本災害看護学会
- ・日本福祉保健学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本ルーラルナーシング学会

#### 【社会活動】

- ・新潟県保健師人材育成・評価委員会（委員、平成 28 年 3 月から現在に至る）
- ・新潟県保健師人材育成ガイドライン策定作業部会（座長、平成 28 年 3 月から現在に至る）
- ・平成 28 年度新潟県看護教員養成講習会運営委員会（委員、平成 27 年 11 月から平成 29 年 3 月まで）
- ・千葉大学附属看護実践研究指導センター 看護学教育 C Q I モデル開発専門家会議委員（平成 28 年 12 月から現在に至る）
- ・NPO 法人新潟難病支援ネットワーク（理事、平成 24 年 4 月から現在に至る）
- ・上越市男女共同参画審議会（委員長、平成 25 年 7 月から現在まで）
- ・上越地域訪問看護ステーション連絡業議会オブザーバー（平成 27 年 8 月から現在に至る）
- ・長岡市栃尾支所地区子どもの健康づくり連絡会議ドバイザー（平成 28 年 5 月から現在に至る）
- ・長岡市小国支所いきいき支援事業アドバイザー（平成 26 年 4 月から平成 29 年 3 月まで）
- ・上越市健康福祉部指定管理者選定委員会（専門委員、平成 27 年 10 月から現在に至る）
- ・上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会 結婚・出産・子育て部会（部会長、平成 27 年 6 月から現在に至る）
- ・富山大学地域連携推進機構 地域医療・保健支援部門 人材育成セミナー講師（平成 28 年 9 月 6 日）：「在宅難病患者と家族への看護援助」
- ・平成 28 年度看護学生地域・在宅看護実習指導者研修会講師（平成 27 年 10 月 1 日）：「看護教育課程」
- ・平成 28 年度新潟県看護協会養成講習会講師（平成 28 年 11 月から平成 29 年 3 月まで）：「看護研究法」
- ・平成 28 年度新潟県保健師リーダー研修会講師（平成 29 年 2 月 13 日）：「自治体保健師がいきいき働き続けるための保健師人材育成体制の構築に向けて」
- ・長岡市栃尾地域子どもの健康づくり連絡会議講師（平成 29 年 3 月 10 日）：「栃尾地域の子育て支援の課題ー包括ケアに焦点を当ててー」
- ・第 5 回長岡医療と福祉の里学会研究評価者（平成 29 年 3 月 26 日）
- ・長岡市小国支所いきいき支援事業報告会講師（平成 29 年 3 月 28 日）：「地域包括ケアの仕組みづくりの課題」

#### 【学内教育活動】

学部：地域看護学概論，公衆衛生看護学Ⅰ，公衆衛生看護学Ⅲ，公衆衛生看護学演習，公衆衛生看護学実習，専門ゼミナールⅠ・Ⅱ，総合実習，疫学，総合科目，公衆衛生

看護学概論，在宅看護論，在宅看護論演習，在宅看護論実習

大学院：看護学研究法，地域看護学特論，地域看護学援助論Ⅰ・Ⅱ，学校保健・養護教育  
展開論，地域看護学特別演習，看護学領域別特別研究，専門分野別課題演習，専門  
分野別課題研究（CNS 該当），老年看護学特論Ⅲ，看護コンサルテーション論

【学内委員会等の活動】

学部長，教学小委員会委員，FD 委員会委員長，ハラスメント防止委員会委員 自己点検評  
価特別委員会委員，外部評価特別委員会委員 看護研究交流センター特別研究部門長

【外部資金獲得】

平澤則子：在宅難病患者と家族のソーシャル・キャピタルと生活満足度に関する実証的研  
究，基盤研究（C）（2012 年～2016 年），科学研究費助成事業（学術研究助成基金助  
成金補助金研究費）

渡邊路子（研究代表者），平澤則子（研究分担者）：ウェアラブル活動量計を併用した運  
輸業従事者への包括的睡眠支援システム構築，科学研究費助成事業（挑戦的萌芽研究）  
（2016 年～2018 年）

飯吉 令枝

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

前川絵里子, 平澤則子, 飯吉令枝, 高林市知佳子, 川野英子 (2017) : 日本における多職種連携を測定する尺度に関する文献レビュー, 新潟県立看護大学紀要, 6, 9-14, (査読有) .

山田正美, 片平伸子, 飯吉令枝, 内藤みほ, 石岡幸恵, 高島葉子 (2017) : 看護学生が行う災害ボランティア活動のための<ハンドマッサージ研修>の効果と課題ー学生がコミュニケーションをとりながらハンドマッサージを相互に提供し合う体験からの気づきー, 新潟県立看護大学紀要, 6, 1-8. (査読有) .

3. 著書

なし

4. 学会発表

山田正実, 長谷川雄司, 坂田智佳子, 吉澤千智, 小原竜軌, 飯吉令枝, 平澤則子, 坂井邦彦 (2016.10.11) : COPD 在宅療養者の冬期のセルフマネジメント支援ー日誌管理と室内運動指導を中心にー, 第 26 回呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 横浜市.

久保野裕子, 井上智代, 飯吉令枝, 渡辺修一郎 (2016.10.27) : 日本におけるがん患者の就労支援に関する文献調査, 第 75 回日本公衆衛生学会総会, 大阪市.

飯吉令枝, 井上智代 (2016.10.28) : 豪雪地域における地域高齢者の食生活ー食品摂取多様性に焦点をあててー, 第 75 回日本公衆衛生学会総会, 大阪市.

井上智代, 飯吉令枝, 渡辺修一郎 (2016.10.28) : 豪雪地域における地域高齢者の食生活ー食事バランス感に焦点をあててー, 第 75 回日本公衆衛生学会総会, 大阪市.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・ 日本地域看護学会
- ・ 日本公衆衛生学会
- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本在宅ケア学会
- ・ 聖路加看護学会
- ・ 日本ルーラルナーシング学会

### 【社会活動】

- ・妙高市介護保険運営協議会（2006.4～）
- ・上越市建築審査会(2008.4～)
- ・上越市開発審査会(2011.4～)
- ・上越市介護保険運営協議会(2015.10～)
- ・上越市介護保険施設整備等検討委員会(2015.10～)

### 【学内教育活動】

学部：公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学演習、在宅看護論演習、公衆衛生看護学実習、在宅看護論実習、総合実習、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ

大学院：地域看護学方法論、地域看護学援助展開論、地域看護学特別演習、老年看護学特論Ⅱ、老年看護学特論Ⅲ

### 【学内委員会等の活動】

教務委員会、災害時看護支援特別委員会、研究推進委員会、看護研究交流センター 地域課題研究開発部門長・特別研究(地域政策課題)

### 【外部資金獲得】

飯吉令枝，井上智代：豪雪地域の高齢者が自立した栄養・食生活行動を維持するためのサポートシステムの構築，独立行政法人 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究(C) 平成 27～ 29 年度(研究代表者)。

高林 知佳子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

前川絵里子, 平澤則子, 飯吉令枝, 高林知佳子, 川野英子 (2017): 日本における多職種連携を測定する尺度に関する文献レビュー, 新潟県立看護大学紀要 6, 9-14. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

高林知佳子, 坪倉繁美 (2016. 12. 11): 介護をしながら働く女性看護師のワーク・ファミリー・コンフリクト尺度の開発ー信頼性・妥当性の検討ー, 第 36 回日本看護科学学会学術集会. (東京)

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本公衆衛生学会会員
- ・日本看護科学学会会員
- ・日本地域看護学会会員
- ・日本健康教育学会会員
- ・日本生殖看護学会会員
- ・北陸公衆衛生学会会員

【社会活動】

- ・富山福祉短期大学非常勤講師 (2010. 4～)
- ・妙高市こころと命のネットワーク会議委員 (2014. 8～)
- ・上越市健康づくり推進協議会委員 (2015. 4～)
- ・特定非営利法人クリエティブアクト理事 (2015. 6～)
- ・妙高市健康づくり推進協議会委員 (2015. 7～)
- ・新潟県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会委員 (2016. 4. 1～)
- ・どこでもカレッジ研修会講師「文献検索の基本～看護研究の論文を探す・入手する～」(2016. 6. 4)
- ・西ヶ窪喜楽会研修会講座講師「健康長寿は高血圧予防から～今こそ見直そう！生活習慣～」

(2016. 7. 20)

- ・ふきのとう研修会講師「健康長寿は高血圧予防から～今こそ見直そう！生活習慣～」

(2016. 7. 27)

- ・上越市高土地区公民館研修会講師「スローエイジングな生き方ー健やかな人生を送るための大切な習慣ー」(2016. 8. 4)
- ・平成 27 年度看護職員再就職支援講習会(復職支援基礎コース)講師「介護保険制度、医療と介護の連携」(2016. 8. 10)
- ・上越市社会福祉協議会研修会講師「介護は突然やってくるー仕事と介護を両立していくためにー」(2016. 8. 23)
- ・新潟県砂利砕石協会上越支部研修会講師「健康長寿は高血圧予防から～今こそ見直そう！生活習慣～」(2016. 9. 30)
- ・上越市三和区老人クラブ研修会講師「スローエイジングな生き方ー健やかな人生を送るための大切な習慣ー」(2016. 10. 27)
- ・上越市柿崎区運動普及推進員研修会講師「健康長寿は高血圧予防から～今こそ見直そう！生活習慣～」(2016. 12. 3)
- ・妙高市教育委員会生涯学習課健康講座講師「スローエイジングな生き方ー健やかな人生を送るための大切な習慣ー」(2016. 12. 6)
- ・コープにいがたミセスの保健室研修会講師「スローエイジングな生き方ー健やかな人生を送るための大切な習慣ー」(2017.1.20)
- ・JA えちご上越助け合い組織「きずな」研修会講師「スローエイジングな生き方ー健やかな人生を送るための大切な習慣ー」(2017.3.17)

#### 【学内教育活動】

学 部：公衆衛生看護学Ⅱ，公衆衛生看護学Ⅲ，公衆衛生看護学演習，公衆衛生看護学実習，在宅看護論演習，在宅看護論実習，疫学、専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習

大学院：地域看護学特論，地域看護学援助論Ⅰ，地域看護学援助論Ⅱ，地域看護学特別演習

#### 【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会副委員長，紀要委員会副委員長，倫理委員会，看護研究交流センター 地域社会貢献部門長，看護職学習支援部門員

#### 【外部資金獲得】

高林知佳子(研究代表者)，坪倉繁美：介護をしながら働く女性看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトの規定要因と課題，文部科学省科学研究費基盤研究(C)(平成26～28年度)



川野 英子

**【研究活動】**

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

前川絵里子，平澤則子，飯吉令枝，高林知佳子，川野英子(2017)：日本における多職種連携を測定する尺度に関する文献レビュー，新潟県立看護大学紀要，6，9-14. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

川野英子，齋藤智恵（2016.8.19~20）：外国人患者に対する受診科案内や会計へのサポートの現状～関東地方の医療機関の調査から～，第20回日本看護管理学会年次大会. (横浜市).

川野英子（2016.8.27~28）：訪問看護師による非がん高齢者の在宅看取りに向けた家族への説明の現状，第23回日本家族看護学会年次大会. (山形市).

5. その他の研究活動

なし

**【学会等における活動】**

- ・日本公衆衛生学会
- ・日本看護管理学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本家族看護学会
- ・日本在宅ケア学会
- ・日本地域看護学会

**【社会活動】**

- ・国立宇都宮病院機構宇都宮病院看護研究 講師 (2016. 4~)
- ・新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会 講師 (2016. 9. 5)
- ・新潟県看護教員養成講習会 講師 (2016. 10~)
- ・看護学生地域・在宅・母性看護実習指導者研修会 講師 (2016. 12. 15)

**【学内教育活動】**

学部：在宅看護論，在宅看護論演習，公衆衛生看護学演習，在宅看護論実習，公衆衛生看

護学実習，総合実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ

大学院：地域看護学特論，地域看護学援助論Ⅰ，地域看護学援助論Ⅱ，地域看護学特別演習，がん看護学特論Ⅰ

**【学内委員会等の活動】**

教務委員会委員，入試・広報委員会委員，紀要委員会委員，看護研究交流センター地域社会貢献部門員

**【外部資金獲得】**

なし

井上 智代

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

井上智代, 飯吉令枝, 渡辺修一郎 (2016. 10. 28) 豪雪地域における地域高齢者の食生活－食事バランス感に焦点をあてて－, 第75回日本公衆衛生学会総会, (大阪) .

飯吉令枝, 井上智代 (2016. 10. 28) 豪雪地域における地域高齢者の食生活－食品摂取多様性に焦点をあてて－, 第75回日本公衆衛生学会総会, (大阪) .

久保野裕子, 井上智代, 平澤則子 (2016. 10. 23) 介護職の腰痛予防に関する支援ニーズ調査, 第59回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会総会, (福井) .

久保野裕子, 井上智代, 飯吉令枝, 渡辺修一郎 (2016. 10. 27) 日本におけるがん患者の就労支援に関する文献調査, 第75回日本公衆衛生学会総会, (大阪) .

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本公衆衛生学会
- ・ 日本農村医学会
- ・ 日本保健福祉学会
- ・ 日本老年社会科学会
- ・ 日本民族衛生学会
- ・ 日本看護研究学会
- ・ 日本母性衛生学会
- ・ 日本在宅ケア学会
- ・ 日本地域看護学会
- ・ 日本災害看護学会

### 【社会活動】

- ・社会福祉法人大石福祉会 評議員
- ・長岡市男女平等センター ウィルながおか 専門相談員
- ・上越市食育推進会議委員
- ・新潟県看護教員養成講習会 講師
- ・新潟県 在宅看護研修会 講師
- ・J A新潟県厚生連 中央看護専門学校 研究指導
- ・パナソニック（株）エコソリューションズ社 新潟工場 研究指導

### 【学内教育活動】

学部：公衆衛生看護学Ⅱ，公衆衛生看護学Ⅲ，公衆衛生看護学演習，在宅看護論演習，  
公衆衛生看護学実習，在宅看護論実習，総合実習，専門ゼミナールⅠ・Ⅱ  
大学院：老年看護学特論Ⅲ

### 【学内委員会等の活動】

3年次編入生コーディネーター，実習委員会，自己点検・評価特別委員会作業部会，  
看護研究交流センター地域課題研究開発部門・特別研究（地域政策課題）

### 【外部資金獲得】

飯吉令枝，井上智代：豪雪地域の高齢者が自立した栄養・食生活行動を維持するためのサ  
ポートシステムの構築，独立行政法人 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究  
（C）平成 27～ 29 年度。

野口 裕子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

野口裕子, 坪倉繁美 (2016) : 地震発生後市町村保健師が住民の反応を捉えて行う二次的健康被害を予防するための活動, 日本災害看護学会誌, 第 17 卷 (3), 58-67, (査読有).

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本地域看護学会
- ・日本公衆衛生学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本災害看護学会
- ・日本子どもの虐待防止学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学部：公衆衛生看護学Ⅱ，公衆衛生看護学Ⅲ，公衆衛生看護学演習，在宅看護論演習，公衆衛生看護学実習，在宅看護論実習，総合実習，専門ゼミナールⅠ・Ⅱ

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会，図書委員会，衛生委員会，看護研究交流センター 先駆的学習支援部門

【外部資金獲得】

なし

久保野 裕子

**【研究活動】**

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

久保野裕子, 井上智代, 平澤則子 (2016. 10. 23) 介護職の腰痛予防に関する支援ニーズ調査, 第 59 回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会総会, (福井).

久保野裕子, 井上智代, 飯吉令枝, 渡辺修一郎 (2016. 10. 27) 日本におけるがん患者の就労支援に関する文献調査, 第 75 回日本公衆衛生学会総会, (大阪).

5. その他の研究活動

なし

**【学会等における活動】**

- ・日本産業衛生学会
- ・日本公衆衛生学会

**【社会活動】**

なし

**【学内教育活動】**

学部：公衆衛生看護学演習, 在宅看護論演習, 公衆衛生看護学実習, 在宅看護論実習

大学院：なし

**【学内委員会等の活動】**

看護研究交流センター 地域社会貢献部門

**【外部資金獲得】**

なし

# 各種委員会等の 活動報告

## 活動報告掲載順

ハラスメント防止特別委員会	101
自己点検・評価特別委員会	102
情報ネットワーク特別委員会	105
国際交流委員会	106
災害時看護支援特別委員会	108
倫理委員会	110
教務委員会	111
実習委員会	114
学生委員会	117
研究推進委員会	119
FD委員会	121
国家試験対策・就職委員会	123
入試・広報委員会	125
図書委員会	126
紀要委員会	128
教学小委員会	129
入学小委員会	132



## 平成 28 年度 ハラスメント防止特別委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎小泉美佐子、○品田英光、平澤則子、渡辺弘之、飯田智恵、山田真衣  
事務局：大國祐子

(ハラスメント防止相談員)

永吉雅人、後田穰、川島良子、高橋祥子

### 2. 活動概要

新入の学部生・大学院生に対し、大学におけるハラスメント防止と相談対応についてガイダンスを実施して、2年生以上はチラシを配布して周知を図った。

また、新入教職員に対しても大学におけるハラスメント防止と相談対応についてガイダンスを実施した。

### 3. 次年度に向けた課題

- (1)ここ数年来、ハラスメント防止に関する学内研修会を開催していないので、開催について検討する。また、ハラスメントと関連する学外研修会等があれば本委員会委員等の教職員を参加させ、教授会で伝達するなどする。
- (2)委員会にあげるまでに至らない相談があったり、学生との意見交換会において教員との関係性に悩む学生がいるといった意見があがっている。秘密性は保ちながら、相談は何時でも対応する体制をとっているが、引き続きの課題とする。

平成 28 年度 自己点検・評価委特別委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎小泉美佐子、○品田英光、平澤則子、水口陽子、境原三津夫

事務局：大國祐子

(教員評価作業グループ委員)

永吉雅人、飯田智恵、井上智代

2. 活動概要

(1) 教員評価の実施 (平成 27 年度業績評価)

昨年度は教員評価指針に基づくプレ実施であったが、今年度から本格実施となった。自己点検・評価特別委員に教員評価作業グループ委員の 3 名が加わり、自己申告入力シートの評価基準の見直しを行った。9 月の教授会で平成 27 年度教員業績評価の実施、及び自己申告シートへの入力説明会を実施して、10 月に評価対象となる 39 名全員の入力を得た。集計作業は、外部スタッフに依頼して、①全体の合計点の平均、最高、最低、順位 ②各評価領域毎(教育、研究、社会貢献、大学運営)の合計点の平均、最高、最低、順位を集計した。個人の合計点に今年度から学長加点がなされ、1～9 点の範囲で加点された。全体の集計結果を 12 月の教授会に報告した。

学長加点、評価基準の微修正、補正係数の変更があったので、厳密な比較にはならないが、平成 26 年度と 27 年度の全体の比較と今年度の評価領域毎の散布図を別に示す。

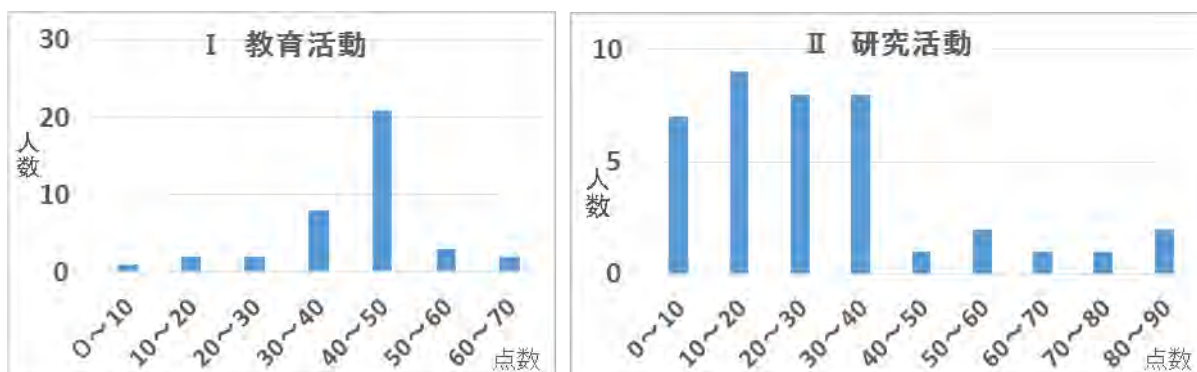
評 価 領 域 別 得 点 の 比 較

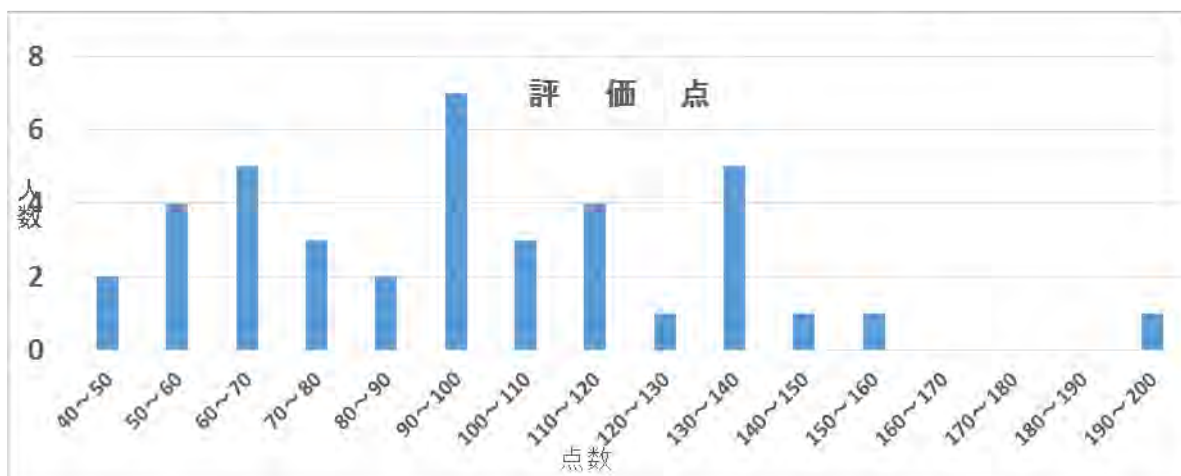
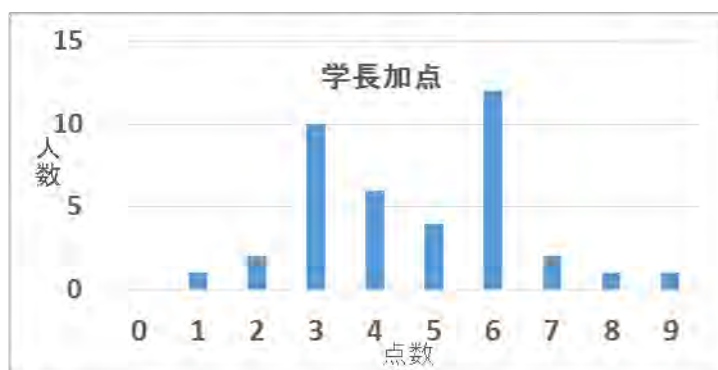
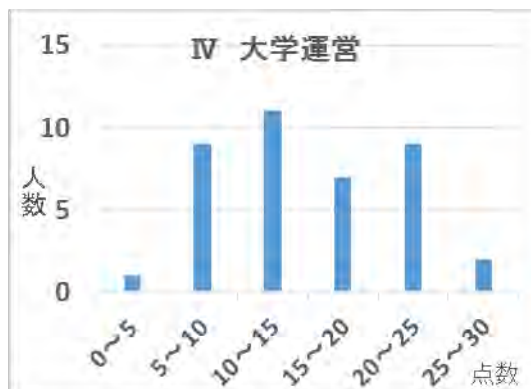
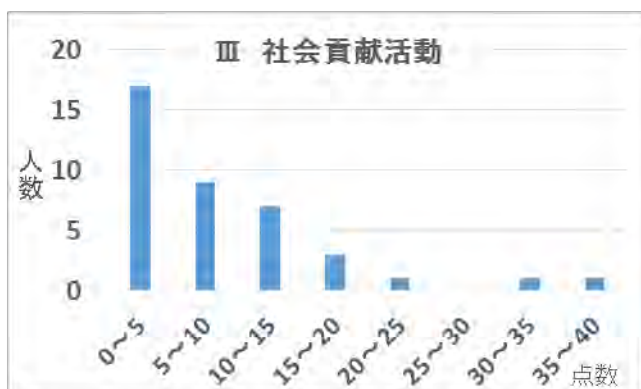
H 2 7	I 教育活動	II 研究活動	III 社会貢献	学長加点	大学評価点	
平均	39.5	28.9	8.3	15.0	4.7	96.4
最高	61.6	89.1	37.6	27.9	9.0	194.2
最低	8.6	0.9	0.0	3.6	1.0	44.6

H26	I 教育活動	II 研究活動	III 社会貢献	IV 大学運営	学長加点	評価点
平均	39.9	32.8	4.5	15.5	—	92.7
最高	66.6	142.1	19.1	31.9	—	186.9
最低	9.8	0.0	0.0	3.1	—	39.5

平成27年度 評価領域別の点数分布





26年度業績と27年度の評価領域毎の平均点の比較において、教育活動は39.9→39.5と横ばい、研究活動は32.8→28.9と低下、社会貢献は4.5→8.3に上昇、大学運営15.5→15.0という結果であった。

教員評価指針に基づき各職位において総合評価点が最高となった教員を学表表彰することを決定し、下記の教員が表彰された。

教授：石田和子 准教授：永吉雅人 講師：井上智代 助教：エルダトン・サイモン  
(職位については27年度末の職位)

なお、報奨金は次年度の教員の個人研究費にプラスすることとした。

## (2) 平成28年度自己点検評価報告書の編集

専任教員の活動業績、各種委員会の活動報告につき、教員の活動報告は4月～12月末

まで、年が明けての3月末までの追加と2段階で提出を求め、各種委員会報告は年度末に提出を求めた。

(3) 大学機関別認証評価（平成29年度受審）に関わる点検・評価報告書の作成

7年に1回受審することが義務づけられている大学機関別認証評価につき公益財団法人・大学基準協会の評価を平成29年度に受審することを機関決定した。今年度は29年度受審の前年度にあたり点検・評価報告書を大学基準協会に提出することを目標として取り組んだ。堀江副理事長が特務としてそのまとめ役となつて、年度当初に作業スケジュールを立案し、スケジュールに従って作業を進めた。具体的には4月に大学評価説明会に副理事長、自己点検評価委員会から小泉副学長、平澤学部長、事務局大國課長が出席した。

5月に学内説明会を実施して各種運営委員会等に記述担当部署を割当てて報告書素案の作成を依頼した。委員会の確認・調整・整理を経て12月にその取りまとめを行い、1月に点検して草案を作成し提出、3月に最終版の点検・評価報告書を提出した。

3. 次年度に向けた課題

(1) 教員評価

27年度業績評価につき、副学長がコメントを入れて、個別に通知することになっていたが、副学長の都合により年度内に通知することができなかった。次年度、できるだけ早くに通知することとする。

(2) 平成28年度自己点検評価

研究論文等3月末に発行されるものもあるところから、年度をまたいで追加データを収集し、平成29年度委員会で、28年度自己点検評価報告書を編集する。研究業績は、法人の中期計画・評価の実績値として計上する。

(3) 認証評価

大学機関別認証評価の受審につきスケジュールにそつて計画的にすすめる。なお、境原三津夫副理事長が特務として、そのまとめ役にあたるものとする。

## 平成 28 年度 情報ネットワーク特別委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎橋本明浩、○永吉雅人、小泉美佐子、原等子、藤田尚、品田英光、森橋真一、  
大國祐子

事務局：永井 信博庶務係長、（オブザーバー）秋山囑託員

### 2. 活動概要

#### (1) 情報管理者の指定

准教授 永吉雅人氏、副管理者として庶務係長。なお、秋山囑託員にはシステムの管理補助業務を遂行してもらうために、管理者権限を付与することとした。

#### (2) 情報科学ネットワークシステム更新について

来年度 11 月に標記システムが更新される。これの予算規模の節約を審議した。

#### (3) 学認参加

国立情報学研究所の学認に参加することとした。

#### (4) 学生用ソフトウェアについて

当面現状を維持することとした。

### 3. 次年度に向けた課題

情報環境が著しく変化し、迅速かつ安全なセキュリティ対策が必要とされる事案が発生しているため、円滑かつ安全な情報環境の維持が図れる体制維持・整備が引き続き大きな課題である。

## 情報ネットワーク特別委員会 実行部会

### 1. 委員構成

部会長：永吉雅人副部会長 橋本明浩 委員 藤田尚、森橋次長、永井庶務係長、岡本教務係長、宮崎主事

事務局：杉田主任

### 2. 活動概要

(1) 自習室の情報機器の監視管理のための見回りを行っている。

(2) プリンター出力超過管理として毎月のプリンター出力を確認し、超過の学生に関して指導を行っている。

(3) 盗難防止システム確認

盗難防止装置としての装置の稼働確認を行い、物品の保全につとめている。

## 平成 28 年度 国際交流委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎中村義実、○岡村典子、境原三津夫、渡辺弘之、西田絵美、  
サイモン・エルダトン、谷内田潤子、山岸まなほ（～6月）  
事務局：永井誉雄、関口詩織

### 2. 活動概要

#### (1) ホーチミン医科薬科大学交流報告会の実施

平成 28 年 3 月 14 日から 22 日までの日程で行われたホーチミン医科薬科大学訪問(参加学生 2 名、引率教員 2 名)の報告会を 5 月 27 日に開催した(教職員 13 名、学生 15 名参加)。引率の渡辺委員、参加学生 2 名のプレゼンテーションは、訪問の成果が具体的、効果的に伝わる内容で好評を得た。

#### (2) 国立クイホア病院スタッフの招聘、および講演会の実施

平成 28 年 9 月 12 日から 15 日までの日程で、国立クイホア病院より Huynh Cong Ai (フィン・コン・アイ)副院長と Vu Tuan Anh (ヴー・トゥアン・アン) 看護師長をお迎えした。この期間、グループホーム「癒しの家」、新潟県立中央病院、群馬大学多職種連携教育センター、栗生楽泉園の訪問・視察を行った。13 日には講演会(「ベトナムの感染症とハンセン病対策」)を公開で開催し、教職員、学生、市民ら 50 人の参加があった。これらの記録を本学ホームページに掲載した。

#### (3) クライストチャーチ工科大学 (Ara Institute of Canterbury) との MOU (国際交流協定覚書) 締結

平成 28 年 8 月 23 日、中村委員長、エルダトン委員がクライストチャーチ工科大学を訪問し、国際交流センター長、看護学部学部長らと、両大学の関係構築に向けての協議を行った。10 月 14 日のクライストチャーチ工科大学の国際交流担当者であるティム・ハヤシ氏による本学訪問を経て、両学間の MOU 締結の準備が進められ、1 月に締結が完了した。両学間の交流プログラムは平成 29 年度より開始される。これらの記録を本学ホームページに掲載した。

#### (4) ホーチミン医科薬科大学・国立クイホア病院との国際交流プログラムの実施

平成 29 年 3 月 11 日から 22 日までの日程で、渡辺委員引率のもと、学生 5 名がホーチミン医科薬科大学並びに国立クイホア病院を訪問した。両機関にて研修や実習を経験し、学生や現地スタッフらと交流活動を展開した。

#### (5) 「じょうえつ外国人医療支援プロジェクト」への協力

平成 29 年 7 月に、上越市国際交流協会が主催となり発足した「じょうえつ外国人医療支援プロジェクト」に本学が後援することとなり、中村委員長、渡辺委員がプロジェクトメンバーとして地域医療通訳システムの構築に向けて活動を行っている。

#### (6) レターヘッド(便箋、封筒)の作成

本学オリジナルのレターヘッド(便箋、封筒)を作成した。

(7) 予算執行の状況について

①平成 28 年度予算

海外大学連携事業費	1,765,000 円
<u>国際交流委員会運営費</u>	<u>50,400 円</u>
合計	1,815,400 円

②平成 28 年度予算執行額

海外大学連携事業費	1,450,606 円
<u>国際交流委員会運営費</u>	<u>50,400 円</u>
合計	1,501,006 円

(内訳)

クイホア招聘関連費用	364,916
クライストチャーチ工科大学旅費等	496,160
ホーチミン医科薬科大学、国立クイホア病院旅費等	488,083
レターヘッド作成費	51,893
海外大学等贈答品	99,954

## 平成 28 年度 災害時看護支援特別委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎山田正実、○高島葉子、飯吉令枝、河原畑尚美、川島良子、野口裕子、内藤みほ

事務局：永井信博庶務係長、杉田康裕主任

### 2. 活動概要

#### (1) 研修会の開催

①教職員対象：第 1 回「被災地の県立大学における経験」（6/17、質疑応答含め 45 分、参加者は 39 名）では、東日本大震災で被災県の県立大学で被災体験をした教員から学生対応等の経験を紹介してもらい、災害時の備えについて考える機会とした。第 2 回「避難所開設支援初動対応訓練」（7/25、8/23 いずれか参加で、60 分、参加者は延べ 63 名）では、大地震が発災し、建物の安全確認後に避難所が開設される設定として、夏と冬を想定したシナリオをもとに、支援者役と住民役を体験した。支援者は「避難所開設支援初動対応マニュアル」に沿い、建物の安全確認や、避難者への対応と誘導を経験した。

②学生対象：新入生ガイダンスでは、防災のための日頃の備え、災害発生時の行動および大学への連絡方法を周知した。研修会は「クロスロード（防災ゲーム）で学ぶ災害ボランティア」（12/15、80 分）をテーマに実施した。参加者は 4 名（1 年生：2 名、2 年生：2 名）で、委員会メンバー（8 名）も加わり、防災ゲームをとおして災害ボランティアのあり方について意見交換を行った。

#### (2) 他団体との連携事業

①新潟県大学災害支援連携協議会：2 回の会議（8/18：新潟大学保健学科、3 月メール会議予定）に参加した。糸魚川市大火災では、担当校として糸魚川市および糸魚川保健所の連携窓口を活用し、支援要請の有無を確認した。

②上越災害医療コーディネートチーム：通信訓練、および研修会（12/17）に参加した。

③避難所開設支援関連：「避難所開設支援初動対応マニュアル」を年度初めに教職員全員に配布した。本マニュアルの検証は、今年度の教職員研修会を通して確認できた。また、避難所開設・運営にかかる「事前打合せ（8/23）」に参加した。

④新潟県看護協会の災害支援メールシステム運用テストに 2 回参加した。

#### (3) 災害時支援の必要物品の管理

委員会管理の物品点検を行い、支援時物品を充実した。災害掲示板前には、災害時速やかに学内外者を誘導、また避難所開設の支援が行えるように、必要物品を収納したリュック、ヘルメット、メガホン、ランタン等を設置している。

#### (4) 学内の防災・減災に向けての活動

①全講義室に、避難指示（火災・地震時）カード、および避難経路図を設置した。

②学生の安否確認および実習中の安全確保に関する「災害に関する意見書」を運営評議会に提出した（8/22）。



### 3. 次年度に向けた課題

学内では、今年度に引き続き、学生・教職員を対象に実践的な訓練・研修会の運営を行う。関連団体との連携では事業への参加および連携窓口としての機能を果たしていく。避難所開設支援については、上越市、自主防災組織と連携しながら、準備を整えていく。

## 平成 28 年度 倫理委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎岩永 喜久子、○高柳 智子、藤田 尚、田口 玲子、高林 知佳子、酒井 禎子、笠原 芳隆、藤井 和子、関谷 伸一

事務局：森橋 真一、関口 詩織

### 2. 活動概要

#### (1) 倫理審査について

23 件の倫理審査を行なった。本学の倫理委員会規程の研究倫理規程に則り、基本指針とする人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成 26 年文部科学省・厚生労働省告示第 3 号）を遵守して審査を行った。

#### (2) 公立大学法人新潟県立看護大学研究倫理規程の見直しについて

本学の倫理規程を見直し、平成 28 年 6 月 1 日から施行した。倫理上の問題が生じるおそれのある研究を行う場合の手続き等を定め、基本指針とする人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を遵守し、本学における研究の適正かつ円滑な推進に資することを目的として、規程を見直した。新たに倫理審査申請書、審査結果答申書、審査結果通知書、指摘事項修正確認表、研究計画変更申請書、研究計画停止・中止報告書、研究計画終了報告書、フォローチャートを作成した。また、指針に則った新たな研究計画書のフォーマットを作成し、申請と審査がより円滑に運用できるようにした。

#### (3) 研究倫理に関する研修会について

東京大学医科学研究所の高島響子特任講師を招いて、平成 28 年 7 月 11 日に「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針の解説」と題した研修会と、同課題の DVD 上映会を 9 月 27 日に開催した。また、上記（2）で記載した新たな規程を円滑に運用するために「新しい研究計画書のフォーマット」と題して、本学小泉研究科長を講師とした研修会を平成 28 年 7 月 26 日に実施した。

#### (4) 予算の執行状況について

平成 28 年度予算額の 50,400 円のうち、平成 28 年度執行額は 31,450 円であった。

### 3. 次年度に向けた課題

改定した本学研究倫理規程に基づき審査を続けながら、改善点についてさらに検討する。

## 平成 28 年度 教務委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎水口陽子、○大久保明子、石田和子、高柳智子、野村憲一、原等子、飯吉令枝、田口玲子、高島葉子、渡辺弘之、川野英子

事務局：阿部信子

### 2. 活動概要

#### (1) 編入生の履修に関する事項

3 年次編入学生に既修得単位認定を行い、学年に応じた適切な履修計画が立てられるように 4 月教学ガイダンス時に履修指導を行った。

#### (2) シラバスに関する事項

法人計画 15 に基づき、学生自身が卒業までの到達目標を設定するために必要かつ理解しやすい記載を検討し、【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】は課程のみの表記に変更するとともに、年次別目次は授業科目構成区分別の一覧表に変更した。また、法人年度計画 16 に基づき、成績評価基準を明確に示すため、シラバス記入要領の「評価方法、評価基準」について詳しく加筆し、担当教員に明確な成績評価基準の記述を依頼した。さらに、今回から事務局を通して非常勤講師にもシラバス記入要領を配布した。今年度の課題として以下の 4 点である。①各担当教員から提出されたシラバス記載に誤りが多く(保助看指定規則に定める種類、時間数、単位数など)、委員の確認・修正に時間を要した。新旧カリキュラム移行期であり、次年度も同様の事が予測されるため、十分な注意喚起が必要と考えられる ②非常勤講師への十分な周知(授業回数に試験日を含めないことや明確な成績評価基準の記述について再度の依頼が必要であった)③記入要領の細かな取り決めの不備(句読点の統一、「科目名」「担当教員」の各項目見出しを 1 列表示か 2 列表示かのいずれかに統一など)④担当教員名(原稿とりまとめ段階で助手氏名を加筆させてほしいとの意見があったが、既に配布したシラバス記入要領に助教以上との明記があったため今回は助教以上のままとした)。

#### (3) 時間割に関する事項

新カリキュラムへの移行期(二年目)であるが、複数学年の同時開講や編入 3 年次生への配慮が必要なかったため、旧カリとの混在による調整の難しさは目立たなかった。各学年で実習期間を避けて座学の授業を入れ込む必要があるため、定期的な開講を希望する外部講師との調整が必要となるものも見られたが調整できた。

#### (4) 専門ゼミナールの実施に関する事項

##### ①看護研究フィールド調整

多領域が重なる実習病院で、特に、同時に同じようなアンケートを同じような対象者(看護師、患者、患者家族)に数多く依頼するような量的研究が複数出た場合や、施設が対象選定に苦慮するような極めて限定的な条件で依頼する研究については施設側の負担が大きいため、教授会でも周知し、科目群での集約時に上記のような研究がないかを各科目群の教務委員が確認し、全体への提出前に調整した。また、本学対象

の学生へのアンケートも、多くの依頼が重なる学年があった場合の対応を検討したことで、上記のような研究はなかったが、看護者へのインタビュー調査の希望が重なり、複数学生が同じ病棟でのデータ収集を希望した場合、研究対象を重複させない為に対象者数を計画より少なくせざるをえず、分析に苦慮している者がいる現状が報告された。委員会でフィールド希望を集約するだけでなく、調整してもらえないかとの意見があり、次年度に向けての課題となった。

#### ②専門ゼミナール希望調査と振り分け

看護研究法初日に希望調査オリエンテーションを行い、希望調査を実施した。今年度は基礎系領域の希望が昨年よりも多く、1人の教員に9人集中したことがあった。希望テーマが看護系領域でマッチしないと受け止めた学生が、基礎系教員に相談に行くこともあった。看護系の教員一人当たりの学生配置基準はあるが基礎系教員については決めていなかったこと、昨年までは基礎系教員との事前面談によりほぼ確定していたことなどが問題点として浮上した。締め切り前に学生へは基礎系教員との事前面談は確約ではないこと、テーマ1およびテーマ2にはいずれも基礎系領域を書いていいこと(委員会メール会議による)などを確認した。結果的に基礎系教員に学生15人を配置(教員一人につき最大6人)した。学生20人余と面談し、ほぼ希望する領域に配置した。今回のような一人の教員への学生配置の偏りは是正される必要があり、今後の課題である。

#### (5) 看護研究発表会に関する事項

発表会までの準備については、担当者が9月から準備を開始し、計画的にすすめたことで、4年生は論文提出、抄録作成、ポスター作成、発表会までのプロセスを順調にすすむことができた。また、全員が論文提出することができた。発表会当日の参加状況は、4年生全員出席、4年生と教員以外の学内者152人、学外者14人であった。3年生の参加が8割超であった。1、2年生の参加がふるわず、時間割の工夫や事前プログラムの配布などに課題が残った。委員会担当の受付人数配分が開始時2名、その後1名ずつで不足との反省があった。来年度は運営委員や事務局などの協力もお願いしていく必要がある。来場者アンケートについて実施してみてもどうかという課題が今年度は上がったが検討できなかった。学部生に若干の感想を記述してもらったが次年度の検討課題としたい。

### 3. 次年度に向けた課題

- (1) 専門ゼミナールの実施に関しては、専門ゼミナールの振り分けについての共通基礎系の人数の上限を決める必要があるか等の配置人数の課題、学生の事前相談時に受け入れ可能を伝えることと確定が混同されやすいことから、学生へのオリエンテーションの課題、共通基礎系教員が担当する学生への就職等の支援に関する課題などがある。また、看護研究フィールド調整時には、教務委員が事前調整し、病院へのアンケート調査はなかったものの、看護者へのインタビュー希望が重なる病棟がでてくるという新たな問題への対応が課題となった。
- (2) シラバスについて、各担当教員から提出されたシラバス記載に誤りが多く、委員の確認・修正に時間を要し、また、非常勤講師への再依頼が必要な事態が発生したこと

から、十分な注意喚起が必要と考えられる。また、記入要領の細かな取り決めの整備や担当教員として記載する職位の範囲を再検討していく必要がある。

- (3) 看護研究発表会については、学外者や1, 2年生の参加人数を増やす工夫が必要である。また受付対応人数の増員、発表会（発表の感想、運営等）に関するアンケートを検討する。

## 1. 委員会構成

委員：◎石田和子、原等子、○岡村典子、後田穰、小林綾子、井上智代、山田真衣、  
天谷まり子、高塚麻由

事務局：阿部信子

## 2. 活動概要

### (1) 臨床実習施設の選定、交渉及び調整に関する事項

#### ①実習懇談会

平成 28 年 5 月 25 日（水）13:00～16:00、実習施設 11 施設 63 名、大学 40 名、計 103 名の出席により実施した。例年通りのプログラムで、臨床講師への委嘱状交付、昨年度の実習総括や今年度の実習計画の説明を行った後、領域別看護学実習懇談を行った。

#### ②実習指導者研修会

平成 28 年 11 月 26 日（土）13:30～15:30 に内藤知佐子先生を迎え「看護を『教える』ということ - 実習指導と新人看護師の教育において -」をテーマとして看護研究交流センター「どこでもカレッジ」との共催で実施した。学外者 72 名、教員 21 名、計 93 名の参加があった。研修会では、内藤先生の講演と、参加者同士のワークを行うことで、普段の指導の振り返りができる内容であった。アンケートでは回答者のすべてが「非常によかった」「よかった」と評価しており、感想からは、実習指導の基本的な教え方を学べたなどの意見が聞かれた。

#### ③領域別実習配置表

平成 28 年度の 3 年次看護学実習配置は例年よりも多く復学者含め 94 名の学生配置であった。これは本学入学試験において、編入学者を減らして推薦入学者を増やしたことにより、3 年次に領域別実習する学生が増加した。この傾向は今後も続くものとする。その他、平成 28 年度の領域別実習の開始日は、老年看護学実習は 8 月 29（月）、その他の領域別実習は 9 月 5 日（月）であった。平成 29 年度の領域実習の開始日は全領域が 9 月 4 日（月）となり、終了日は平成 30 年 2 月 2 日（金）の予定で領域別実習配置表を作成する。

#### ④総合実習

総合実習は完全パッケージ化にて実施。すべての学生が希望する領域にてほぼ実習可能であった。

また、平成 29 年度総合実習にむけ、学生に 2 月 7 日（火）総合実習オリエンテーションを実施した。昨年と同様、希望調査票を 2 月 17 日（金）〆切（メール添付にて提出）、3 月 3 日に発表することとした。

### (2) 臨床実習の実施方法に関する事項

#### ①実習オリエンテーション

平成 28 年 7 月 25 日（月）9:00～11:00 に、3 年次領域別実習オリエンテーションを実施した。実習の概要や領域別のオリエンテーションの他、看護技術到達度リス

トの使用方法についても説明を行った。また、1.2年次の基礎看護学実習前には、情報倫理に関するオリエンテーションを実施した。

#### ②技術到達度リスト

4年生の実習終了後に到達度を集計し、結果は掲示で学生に知らせた。また、記載不足の学生に記載を促すため、3年生実習終了後に回収し、コメントと共に返却した。今年度はさらに、昨年度（2015年度）と今年度（2016年度）の4年生実習終了時の到達度の比較を行い、看護技術における課題を明確にした。臨床の変化に伴って、学生が体験する技術の到達度も変化していることから、到達度と形式の見直しを行った。

#### (3) 臨床実習要項に関する事項

##### ①実習要項

5月31日の実習懇談会に合わせ、基礎看護学、成人看護学、母性看護学、小児看護学、老年看護学、精神看護学の実習要項を各250部作成した。臨地実習の概要について、2017年度版よりヒヤリ・ハットに関する記載を追加し250部作成した。実習ファイルの仕様について、表紙・裏表紙・背表紙に印字を入れた2穴リングファイルにすることを決定し、400冊作成した。

#### (4) その他

##### ①継燈式

平成28年6月29日（水）13:00～14:10、新潟県立看護大学第1・2ホールにおいて平成28年度継燈式を実施した。2年次生94名が中心になって挙行し、保護者123名（概数）、来賓・教職員25名が出席した。現在、次年度開催に向けて1年生の実行委員12名が準備を進めている。

##### ②ユニホーム

平成27年度と同様に吉崎商店に依頼し、入学時オリエンテーション期間（4月4日（月））に採寸を実施した。採寸日に合わせカーディガン、ナースシューズの注文も行った。作成は5月連休明けからにしてもらうよう依頼し、学生への販売は7月13日（水）に行った。うち1名、当日に支払いが間に合わず、後日支払いとなった。また、当日は2～3人程度が、業者の都合で再採寸となり、後日、教員より本人へ渡したほか、申し込み枚数の間違いやサイズの不具合等の声も学生から聞かれ、相談対応した。今後、納入業者等の再検討等を行っていく予定である。

##### ③実習物品購入

今年度の実習物品購入予算は前年度同様に10万円程度となった。物品によっては在庫のある実習病院もあり、購入予算としては問題なかったと考える。実習病院ごとに配分した主な物品はハンドソープ、ペーパータオル、サージカルマスク、ゴミ袋であった。

#### 3. 次年度への課題

- (1) 平成30年度から新カリキュラムの臨地実習が開始となることから、実習施設への実習期間など変更について何度か説明しているが理解が薄いことから開始前であり再度の説明を行う。
- (2) ユニホームの納入業者が長年、同じ業者であり、今後、納入業者の再検討を行う必

要がある。

(3) 到達度チェックリストの見直しを行った。次年度も使用し検討する。



## 平成 28 年度 学生委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎酒井禎子、○永吉雅人、山田正実、河原畑尚美、エルダトン サイモン、  
北村千章、石原千晶、天谷まり子

事務局：本山宏一

### 2. 活動概要

#### (1) 学生自治会活動支援

4/23 (土) 球技大会、5/27 (水) 自治会総会、11/5 (土) 桜蓮祭を実施した。桜蓮祭は、「百花斉放～絆の花を咲かせよう～」をテーマとし、来場者は約 690 名であった。全国公立大学学生大会 (10/8-10: 北九州市) に自治会長と副会長の 2 名が参加した。高等教育コンソーシアムにいがた看護系大学タスクフォースの活動として、「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」(9/18) に自治会役員から 6 名の学生が参加した。

#### (2) 学生との意見交換会

12/21 (水) 14:30~16:00 に、学生 31 名、教職員 27 名が出席して行い、大学への要望や学年別の課題について話し合った。議事のまとめを教職員に配布、学生には掲示した。

#### (3) 学生生活実態調査

9-10 月に調査を行い、集計結果を学内 HP に掲載するとともに、ポスター掲示や教授会での資料配布により学生の生活指導・学習環境改善の資料として活用した。

#### (4) 学生の地域交流支援

7/25 (月) 「高田祇園まつり民謡流し」に学生 78 名、教職員 19 名が参加した。

#### (5) 学生のボランティア活動支援

25 件のボランティア募集があり、掲示で周知した。学外活動届より把握した学生参加のボランティア活動は 36 件、参加学生数は延べ 149 名(2 月 28 日現在)であった。

#### (6) 新入生オリエンテーション

4/8 (金) ~9 (土) に学内・アスティくろひめで実施した。新入生 96 名、上級生 10 名(2 日目のみ)、教職員 19 名が参加した。

#### (7) 教育環境の向上他

オフィスアワーのガイダンスや学生生活実態調査・意見交換会での意見に基づいた活用促進の方策の検討と教授会での報告を行った。また、障がい学生支援に関する研修会への参加により、情報収集を行った。

#### (8) その他

- ・計 202 名の学生が奨学金を利用。成績不良者に対して担任より個別指導を行った。
- ・学生相談関係者会議を 2 回実施。2 回目の会議からは保健室保健師もメンバーに加わった。
- ・成績優秀賞 2 名の推薦を行った。

### 3. 次年度に向けた課題

オフィスアワー活用促進、保健室保健師も含めた学生相談関係者間の連携、ならびに障がい学生支援に関する具体的な対応に関する理解を深めることが課題である。

## 平成 28 年度 研究推進委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎境原三津夫、○大久保明子、飯吉令枝、徐淑子、石岡幸恵

事務局：秋本聖子

### 2. 活動概要

#### (1) 科学研究費以外の外部資金に関する情報提供について

教員談話室に助成金に関する情報コーナーを設置し、資料の閲覧を常時可能とした。

#### (2) 科研費申請に関する説明会の開催について

10月4日(火)に事務局杉田主任と境原委員長により、平成28年度科研費申請学内説明会を開催した。

#### (3) 研修会の開催について

①7月11日(月)に倫理委員会・研究推進委員会共催で、東京大学医科学研究所公共政策研究分野の高島響子先生による倫理研修会を開催した。また、研修会を撮影したDVDの上映を9月27日(火)に行った。

②7月26日(火)に倫理委員会・研究推進委員会共催で研修会「研究計画書の書き方—人を対象とする医学系研究に関する倫理指針をふまえて—」を開催した。これは新倫理指針に基づき、副学長、倫理委員会委員長、研究推進委員会委員長からなるワーキング・グループが作成した倫理審査申請用の研究計画書のテンプレートの記載方法を、小泉副学長が解説したものである。DVDに収録し、希望者に随時貸し出しを行った。

③9月28日(水)に研究推進委員会主催、博士後期課程準備室後援で、科学研究費採択に向けた研修会を開催した(講師は金沢医科大学看護学部長の長谷川雅美先生、演題は「科研費—採択されるための秘訣—」)。講演内容はDVDに収録し、希望者に随時貸し出しを行った。

#### (4) 学内共同研究助成について

学内共同研究助成に関して、委員会にて募集要項および申請書式、選定基準等を作成した。今年度、初めて募集を行い、6件の応募があった。委員会にて審査を行い、6件が採択された。

#### (5) 外部資金について

- ・平成28年度の科学研究費の新規採択は、基盤研究(C)が2件、若手Bが1件であったが、教員の転出に伴い、今年度の実績は基盤研究(C)2件となった。
- ・平成28年度の外部資金獲得の実績は、科学研究費が15件(新規2件+継続13件)、その他の外部資金が2件の合計17件であった(平成28年度の目標値は19件)。

#### (6) 図書購入について

科研費の採択率を向上させるため、名古屋市立大学学長である郡健二郎先生の著作「科研費 採択される3要素」を委員会予算で購入した。

#### (7) 予算執行の状況について

- ・平成28年度予算

研究推進委員会運営費	50,400 円
・平成 28 年度予算執行額	
研修会講師交通費・謝金、図書購入費	37,349 円

## 平成 28 年度 F D 委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎平澤則子、水口陽子、野村憲一、中村義実、徐淑子、○小林綾子、谷内田潤子

事務局：宮崎達也

### 2. 活動概要

#### (1) 教員の教育評価及び教育能力の開発に関する事項

##### ①学生による授業評価アンケート調査（担当：平澤、徐）

今年度から実習についてもアンケートを実施した。授業評価アンケートの実施率は、前期科目は 98%、後期は 100%であった。集計結果は、本学ホームページの「学内専用」に以下の構成で公開した。

ア. 授業評価アンケート実施科目（教員数・科目数・履修者数・回答者数）

イ. 全体集計結果（調査項目 12 項目の平均）

##### ②アクティブラーニング研修会（担当：野村、小林）

アクティブラーニング研修には 32 名の参加があり、すべての参加者がとても有意義だったと回答していた。また「教育活動に活かせるか」という問いには、83%が活かせると回答しており、指導能力向上の契機になったことが確認された。参加者は 32 名で、すべての参加者がとても有意義だったと回答していた。また、「教育活動に生かせるか」という問いには、83%が生かせる（やや思う、思う）と回答していた。次年度の研修内容の希望は、「学生を引き付ける講義の手法」、「アクティブラーニングの実践」に多くの回答が得られた。次年度は、「アクティブラーニングの実践」というテーマで企画する。

##### ③新任教員研修会（担当：平澤、小林）

初任者研修には 9 名の参加があり、「大学の教育理念や学内運営の理解が深まった」という意見が出された。初任者研修として目的を達成したことが確認された。次年度も継続して実施する。

#### (2) 教育方法の開発に関する事項

特になし

#### (3) カリキュラム開発への協力に関する事項

特になし

#### (4) その他学長から付託を受けた事項

特になし

### 3. 次年度の課題

教員の教育能力、研究能力の開発が課題であり、教務委員会や研究推進委員会等と連携して対応していく必要がある。以下の取組を実施する。

①学生による授業評価アンケートを継続実施し、その結果を公表するとともに、教員から授業改善例を収集し教員と学生にフィードバックする。

②教員の教育研究力向上のためのアクティブラーニング研修を継続して実施する。

## 平成 28 年度 国家試験対策就職委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎高島葉子、○高林知佳子（副委員長）、酒井禎子、後田穰、  
北村千章、中澤紀代子、石原千晶、安藤亮、内藤みほ

事務局：岡田優佳

### 2. 活動概要

#### (1) 国家試験対策の企画および実施について

##### ①国家試験対策講義

看護師・保健師対応としては学生へのガイダンスを行い、さらに7月～11月にかけて国家試験対策講義を18回実施した。終了後の調査において、老年看護学、精神看護学の対策講義を希望する声があがった。助産師対応として講義（全体・個別）を6回実施した。学生への国家試験対策指導を充実させるための教員セミナーを実施し、多くの参加を得た。

##### ②国家試験模擬試験のサポート

看護師は6回、保健師は3回、助産師は5回の業者模試を実施、委員会で各1回ずつの模試を実施した。結果をふまえ、ゼミおよび国家試験対策委員会で継続的にフォローした。

##### ③国家試験激励会および国家試験受験状況及び結果

		受験者数	合格者数	合格率	全国合格率 (新卒のみ)	全国合格率 (既卒含む)
看	新卒	92名	89	96.7%	94.3%	88.5%
保	新卒	95名	95	96.8%	94.5%	90.8%
助	新卒	3名	3	100%	93.2%	93.0%

#### (2) 進路指導について

各学年の進路指導の目標を明確にし、学生がキャリア形成の意義を理解し、自らの進路が決定できるように進路ガイダンスを4回実施した。アンケート結果では、進路選択に役立ったとの回答が多かったが、開催時期に対しては大多数が適切とする一方、インターンシップに参加する時期を早めたいなど早い時期の開催を希望する学生もいた。県内就職が昨年度より減っているが、過去にも同様のことがあり、経緯を見守りたい。

#### (3) 求人訪問対応と進路情報の提供

- ・50件の求人訪問に対する対応を行った。前年度より6件少なかった。
- ・就職情報コーナー、Vドライブの求人施設情報などにおける情報提供を周知した。

#### (4) 進路状況調査

- ・進路ガイダンス、国家試験手続き、ゼミを通じて学生に周知した。

### 3. 次年度に向けた課題

- 国家試験対策講義に学生の要望に応じて老年看護学、精神看護学を加えて実施する。
- 学生の希望に応じて、看護師模試の回数や保健師模試の業者の見直しを行う。
- 学生の学習進度に応じた4回の進路ガイダンスの継続と周知と参加の促し。



## 平成 28 年度 入試・広報委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎野村憲一、○大久保明子、中村義実、西田絵美、○山田正実、川野英子、飯田智恵、安藤亮、川島良子、石岡幸恵

事務局：岡本剛、杉田康裕、星野史

### 2. 活動概要

#### (1) 入試実施本部会議に関する事項

①推薦・社会人入学試験、一般入学試験（前期、後期日程）、科目等履修生入学試験の年度計画の作成、入試問題出題の作成、入試説明会の開催、試験の実施、合格者の決定、ならびに、教授会での承認、社会への発表を行った。

②平成 30 年度入学試験の実施日程を提案した。

#### (2) 大学入試センター試験の実施に関する事項

大学入試センター試験入試担当者連絡協議会への参加（2 回）、大学入試センター試験説明会（学内向け 1 回）、リスニングの説明会 2 回を実施した。不参加者には、DVD を閲覧してもらい、従事者に周知を図った。

#### (3) 入試問題の作成、管理、実施に関する事項

①本学の選抜試験の作成、管理、実施は、ガイドラインにそって厳正に行った。また、大学入試センター試験についても厳重に保管、実施した。

②本学入学試験と大学入試センター試験の実施の反省と今後の課題

本学の準備態勢に問題は無かったが、一人の受験生に対して、本学で再試験が行われた。

#### (4) 学生募集に関する事項

①学校説明会（36 回）※、出前講義（5 回）※、学内見学（10 回）※、オープンキャンパス（2 回、参加者合計 511 名）を行った。※平成 29 年 1 月 25 日時点

②広報誌の作成

広報誌（ポルティコの広場）、大学案内（ガイドブック）の作成、各種広報誌（上越かわらばん、NOSAI）への投稿計画、執筆依頼を行った。

#### (5) 大学のホームページに関する事項

大学ホームページの管理及び運営を行った。

#### (6) 予算

入試・広報関連として、オープンキャンパス用の旗、テーブルなどを購入した。

### 3. 次年度に向けた課題

前期の志願者数は昨年度に比べ減少した。（平成 28 年度 162 名、平成 29 年度 115 名）。一過性の減少なのかもしれないが、次年度は、さらに、オープンキャンパスや進学相談会、広報誌等を最大限に活用して受験生に本学をアピールし、受験者数増加に貢献する活動をしたい。

## 平成 28 年度 図書委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎境原三津夫、○橋本明浩、藤田 尚、山田真衣、高塚麻由、野口裕子  
事務局：本山宏一、吉原貴子（司書）

### 2. 活動概要

#### (1) 管理運営

①図書館費 10,045 千円（前年度と同額）

雑誌購読費 3,421 千円、図書購入費 1,267 千円

②入館者数、貸出冊数、文献依頼件数などの利用統計を月別にまとめ分析した。

③各種協議会・研修会等への参加

- ・公立大学協会図書館協議会総会（境原図書館長）
- ・新潟県大学図書館協議会総会（境原図書館長、本山係長）
- ・新潟県大学図書館協議会研修会（本山係長）
- ・公立大学協会図書館協議会関東・甲信越地区館会議（境原図書館長、吉原司書）
- ・学術情報基盤オープンフォーラム 2016（吉原司書）

④上越教育大学附属図書館と共同で蔵書交換展示会を実施した。

期間：第 1 回 6 月 1 日～6 月 30 日、第 2 回 11 月 1 日～11 月 30 日

交換展示図書は各回 100 冊。

⑤蔵書点検

図書館 2 月 27 日～3 月 3 日、研究室 1 月 5 日～31 日に実施した。

⑥データベース講習会

EBSCO 利用講習会を 1 回開催した。

#### (2) 図書館のちからプロジェクト

図書館の利用促進を図るプロジェクトとして以下の活動を行った。

①新入生図書紹介（4 月 22 日、5 月 20 日）

2 日間で 11 名の参加があった。

②ブックハンティング（6 月 17 日）

院生を含む 4 名の学部生が自ら書店で選書を行った。35 冊すべてを購入し、学生作成の POP を付けて館内展示した。

③大学祭での DVD 上映会（11 月 5 日）

『音のない 3.11 被災地にろう者もいた』、『タートルシスターズ』、『忘れてほしゅうない』の 3 本の DVD 上映を行い、18 名の参加があった。

#### (3) 広報活動

今年度より「図書館だより」の名称を「新潟県立看護大学図書館 Library Newsletter」に変更するとともに紙面デザインを変更し、No.39 を 7 月に、No.40 を 1 月に発行した。学外配布先は、大学役員・県内大学図書館・病院を中心に、74 機関であった。

#### (4) 図書購入

①教員推薦図書

予算 677,000 円が計上され、9 月に推薦図書を募り、図書 216 冊（昨年度より +53 冊）、視聴覚 1 セットの推薦があり、全てを購入した。

②学生リクエスト図書

10 月にリクエスト図書を募り、9 名の学生より 33 冊のリクエストがあり、全てを購入した。

③重点収集図書

「私を支える本」として、予算 20,000 円が計上され、19 冊購入した。

(5) 雑誌購入

購読雑誌の継続購入について審議し、継続を決定した。なお、電子ジャーナルの購入に伴い、同タイトルの書籍版については購読を中止した。

購読雑誌の利用状況については、通年にて調査を実施した。

(6) 蔵書の更新・除籍に関すること

①寄贈図書（3 月末現在）：図書 267 冊，視聴覚 8 巻

②除籍：図書 830 冊，視聴覚 84 巻

(7) リポジトリ「にこナース」

平成 28 年度末現在：1,009 件

（新規登録：紀要 2 件、学術論文 9 件、自己点検評価報告書、平成 27 年度センター活動報告書、看護大通信 11 件、他）

(8) 図書館ホームページ

①ホームページのレイアウト変更を行った。

②教員推薦図書「おすすめの一冊」について、昨年度は図書委員の教員が行ったが今年度より学内教員に依頼して実施した。

3. 次年度に向けた課題

- ・図書館内に絶対的にスペースが不足している。新規購入図書のスペースを確保するため、古い雑誌、古い図書の除籍を進めていく。
- ・利用促進を図るため、図書館のちからプロジェクトを継続する。
- ・教員及び大学院生におけるリポジトリ「にこナース」への新規登録を促進する。

## 平成 28 年度 紀要委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎高柳 智子、○高林 知佳子、関谷 伸一、岩永 喜久子  
事務局：吉原 貴子(司書)

### 2. 活動概要

#### (1) 新潟県立看護大学紀要 第 6 巻の編集および発行

定例委員会 4 回とは別に、編集会議を 9 回開催した。今年度は、昨年度の投稿状況をふまえて投稿受付期間を 3 か月から 1 か月に戻すとともに、投稿事前届出書の試験導入を行った。さらに、昨年度に引き続き、大学院ガイダンスや、大学ホームページや学内メールでの周知にて積極的に投稿の呼びかけを行った。投稿論文数は 4 件（報告 3 論文、資料 1 論文）あり、査読者の意見をふまえ編集会議にて採否を決定した。結果、報告 1 論文、資料 1 論文の計 2 論文を掲載することができた。発行形態は今まで同様に電子ジャーナルであり、平成 29 年 3 月 15 日に本学リポジトリに登録した。電子版組作業 43,200 円であった。なお、第 6 巻の掲載に間に合わなかった報告 1 論文については、次年度発行予定の第 7 巻に掲載することとし、最終原稿の受理を行った。

#### (2) 新潟県立看護大学紀要投稿要項ならびに投稿チェックリストの改正

今年度の編集過程において、査読者間での論文種類の意見が分かれることが多く、現行の投稿要項内容では共通の認識で論文種類を検討できないことが課題として浮き彫りとなった。その善後策として新潟県立看護大学紀要投稿要項ならびに投稿チェックリストの改正を検討し、教育研究審議会での審議を経て、平成 29 年 4 月 1 日に改正する運びとなった。改正点は論文種類、著者資格、利益相反の記述の明記の 3 点である。

### 3. 次年度に向けた課題

今年度試行した投稿事前届出書は 3 件の提出があり、そのうち 2 件は実際に投稿された。投稿事前届出書の本格導入の可否の結論は現段階ではまだ出せないため、次年度の第 7 巻も試行を続けることとした。投稿事前届出書により投稿件数が予測でき、紀要編集の見通しが立てやすくなったことが委員会側での利点であった。今年度は初めて大学院生からの投稿があった。大学院生が論文投稿および査読を受けるといった経験を積んでもらうことを意図して、次年度も大学院ガイダンスでの周知を行う予定である。

### 4. その他

平成 28 年 1 月～12 月の本学紀要第 1 巻～第 5 巻の閲覧は総計 1,539 件、ダウンロードは総計 3,211 件であった。

## 平成 28 年度 教学小委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎石田和子 ○平澤典子、小泉美佐子、水口陽子、岩永喜久子、高柳智子、田口玲子

事務局：岡本剛、本山宏一

### 2. 活動概要

平成 28 年度大学院の教務運営に関して研究科委員会と連動した年間活動計画を立て活動した（別紙参照）

年度初めに役割分担を行った：シラバス（小泉・石田）、学生便覧（平澤・石田）、時間割（高柳、田口）、論文発表会（水口、岩永）

#### (1) 新入生及び学年ガイダンス

入学式当日、新入生 5 名に対してガイダンスを行った。同日、M2 生に対してもガイダンスを実施した。

#### (2) 平成 28 年度入学生から適用の教育課程改正

平成 28 年度入学生から地域看護 CNS コースの募集を中止することに伴い地域看護学科目群の授業科目を地域看護学特論、地域看護学援助論Ⅰ、地域看護学援助論Ⅱ、地域看護学特別演習の 4 科目で構成することにした。また、科目責任者の退職により、文献講読、形態機能学特論を廃止とした。

#### (3) 専門看護師教育課程（26 単位）の共通科目（看護学研究法、看護理論、看護倫理特論、看護政策論、看護コンサルテーション論）の更新申請を一般社団法人・日本看護系大学協議会に行い、無事承認を得た。

#### (4) 大学院入試説明会・相談会の実施

入学小委員会と連携して、6 月 25 日（土）11 時 - 12 時にどこでもカレッジ前に大学院入試説明会を実施した。また、9 月 24 日（土）11 時 - 12 時（地域課題研究発表会と同時開催）と 10 月 22 日（土）11 時 - 12 時に大学院進学相談会を開催した。

#### (5) 大学院生向け特別セミナーの開催について

7 月 30（土）に特別セミナーがん看護学領域が中心となり開催した。群馬大学保健学研究科、応用看護学ユニット・看護学領域教授神田清子講師による「がん看護学における実践に活かす看護研究」の特別セミナーが行われた。参加者は、院生 24 名（1 年次 5 名、2 年次 13 名、3 年次 6 名）、教員 11 名の 35 名であった。次年度以降も科目群の輪番で開催することとした。

#### (6) 大学院を新たに担当する教員の選考

第 10 回目の委員会において新潟県立看護大学大学院看護学研究科修士課程を担当する専任教員の選考に関する申し合わせ資料に基づき検討した。研究指導教員として 1 名の選考審査結果は、不承認となった。

#### (7) 平成 27 年度学位論文審査及び修士論文発表会開催

13 名の論文提出があり（6 名は研究コース、7 名は CNS コース）、論文審査委員会を組織して論文審査・口頭試問を行った。結果、全員合格と認定され修了要件を確認し

て研究科委員会の審議を経て全員修了の運びとなった。学位論文発表会が平成 29 年 3 月 3 日に行われ、出席者は 69 名（教員 30 名、大学院生 28 名、その他：事務職員・外部の看護職等 10 名）であった。

### 3. 次年度に向けた課題

- (1) 社会人が学習しやすい環境を整える目的で遠隔講義について検討する。
- (2) 特任講師（専門看護師）および大学院臨床講師(仮)について検討する。
- (3) 修士論文研究計画書審査  
研究の科学的合理性、倫理的妥当性に関して厳正な審査を実施して、続く倫理審査を円滑に受審できるようにする。

年間日程			
日程	研究科全体の動き	日程	教学小委員会
4月	第1回大学院研究科委員会	4月	オリエンテーション M2:14:00～ M1:15:10～
6日	・平成29年度大学院入試概要	7日	・便覧、シラバス、成績表配付
	・履修届の提出と取りまとめ		・学位論文提出までの日程通知
22日	・主指導者届出提出期限	20日	第1回教学小委員会
			・年間予定及び役割分担
5月	第2回大学院研究科委員会	5月	第2回教学小委員会
11日	・新入生主指導者の確認	25日	・新入生主指導者の確認
	・開講科目確認		・履修届の提出、履修状況の確認
	・非常勤対応(受講者が1名の場合)		・時間割未開講科目(非常勤)の対処
			・学位論文提出予定者(前期)確認
6月		6月	
8日	第3回大学院研究科委員会	22日	第3回教学小委員会
			・修士論文審査委員(前期)選出
			・前期成績取りまとめ時期
			→成績提出時期告知
7月		7月	
6日	第4回大学院研究科委員会	20日	第4回教学小委員会
	・修士論文審査委員(前期)体制告示		・学位論文発表会(前期)の企画
11日	学位論文審査・最終試験(前期)(8/5まで)		・修士論文審査・修了予定者(前期)の単位取得状況
8月		8月	
22日	学位論文公開(前期)(8/31まで)		
26日	8月入試		
9月		9月	
7日	第5回大学院研究科委員会	21日	第5回教学小委員会
	・8月入試合否判定		・次年度時間割の検討
	・学位論文審査・修了判定(前期)		・学位論文発表会(前期)に関する検討と告示
27日	学位論文発表会・学位記授与(前期)	27日	学位論文発表会(前期)
10月		10月	
5日	第6回大学院研究科委員会	19日	第6回教学小委員会
	・大学院科目等履修生入学試験の概要		・前期成績確認
			・今年度修了予定者の準備状況
11月		11月	
2日	第7回大学院研究科委員会	16日	第7回教学小委員会
			・次年度非常勤講師要望調査
			・学位論文提出予定者確認
			・次年度時間割、シラバス原稿提出日程
12月		12月	
7日	第8回大学院研究科委員会	21日	第8回教学小委員会
	・次年度非常勤講師選考の告示		・次年度非常勤講師選考
	・次年度担当専任教員選考の告示		・修士論文審査委員選出
	・次年度時間割、シラバス原稿提出の告示		・学位論文発表会の企画立案・告示
1月		1月	
4日	第9回大学院研究科委員会	18日	第9回教学小委員会
	・修士論文審査委員体制告示		・中期計画当年度実績及び次年度計画検討
23日	学位論文審査・最終試験(2/14まで)		・次年度非常勤講師選考
30日	1月入試		・学位論文発表会の企画
			・後期成績提出日程の検討
2月		2月	
1日	第10回大学院研究科委員会	15日	第10回教学小委員会
	・1月入試合否判定		・修士論文審査・修了予定者の単位取得状況
	・次年度シラバス、時間割等の検討		・次年度担当専任教員の選考審査
16日	学位論文公開(2/21まで)		・次年度非常勤講師選考
22日	第11回大学院研究科委員会(臨時)		・学位論文発表会に関する検討と告示
	・学位論文審査・修了判定		・次年度時間割、シラバス最終確認
3月		3月	
1日	第12回大学院研究科委員会	3日	学位論文発表会
	・次年度担当専任教員の選考審査	15日	第11回教学小委員会
	・次年度非常勤講師確認		・後期及び通年科目単位の取得状況
3日	学位論文発表会		・次年度学位論文提出までの日程検討
9日	学位記授与		

## 平成 28 年度 入学小委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎岩永 喜久子、○田口 玲子、石田 和子、原 等子、岡村 典子、徐 淑子

事務局：岡本 剛

### 2. 活動概要

#### (1) 入学者の選考に関する事項

##### ①平成 29 年度大学院入学者の選抜試験の実施

平成 29 年度大学院入学者選抜試験を、8 月入試と 1 月入試として、平成 28 年 8 月 26 日（金）と平成 29 年 1 月 30 日（月）に実施した。最終的に、11 名が平成 29 年度大学院入学者として選抜された。

##### ②科目等履修生入学試験の実施

平成 29 年度科目等履修生入学者を募集したところ、2 名（3 科目）の応募があった。規定に基づき審査を行い、2 名とも合格となった。

#### (2) 入学定員充足と選抜方法の見直しへの取り組み

①入学定員充足目的で、大学院入試説明会（平成 28 年 6 月）と大学院入試相談会（平成 28 年 9 月と 10 月）を実施した。14 名の参加があり、そのうち 3 名は科目履修希望であった。

②アドミッションポリシーを、大学院のホームページ、大学案内のチラシ、学生募集要項などに掲載するとともに関係団体等へ配布して、入学について広く周知した。

③大学院入学者選抜における面接試験問題採点票を見直すと共に、新たに規定に則った科目履修に係る審査資料を作成した。

### 3. 次年度の課題

次年度も、入学者選抜方法と入学定員について引き続き検討予定である。